

理学療法士 国家  
作業療法士 試験

必修ポイント

# 理学療法

疾患別編

医歯薬出版 編

(2007年10月制作)

- 2～4頁 「第42回PT・OT国試問題」の概要
- 5～17頁 「出題傾向と対策の要点 14年間」(第29回～第42回)
- 19～29頁 「第40回PT・OT国家試験問題」(理学療法 疾患別編)
- 30～42頁 「第41回PT・OT国家試験問題」(理学療法 疾患別編)
- 43～55頁 「第42回PT・OT国家試験問題」(理学療法 疾患別編)
- 56頁 「国家試験合格率」(第30回～第42回)

# 第 42 回 PT・OT 国試問題の概要

## 第 42 回 PT・OT 国家試験は大幅に変更された！

「第 42 回理学療法士・作業療法士 国家試験」(以下「第 42 回 PT・OT 国試」と略す)は、平成 19 年 3 月 4 日(日)に実施されましたが、今回は今までと比較して、その出題形式が大きく変更されました。それは①「X(2)タイプ」問題の出題数の大幅な増加と、②「X(2)タイプ」問題の出題領域の拡大です。厚生労働省は「第 42 回国家試験から出題形式を変更する予定である」と全国の養成校に到達していましたが、これほどに変更「X(2)タイプ」問題が増加し領域拡大するとは、予測していませんでした。ここでいう問題形式のタイプ例を、以下の表 1 に示します。

表 1 問題形式のタイプ例

「Aタイプ」問題	「Kタイプ」問題	「X(2)タイプ」問題
第 42 回 共通問題より	第 42 回 共通問題より	第 42 回 共通問題より
<b>問題 1</b> 外胚葉から発生するのはどれか。 1. 骨 2. 脊髄 3. 筋 4. 心臓 5. 子宮 A. 2	<b>問題 18</b> 腎臓で正しいのはどれか。 ア. 糸球体は髄質にある。 イ. 近位尿細管は腎盂にある。 ウ. 尿管は皮質と連結する。 エ. 輸入糸動脈は糸球体と連結する。 オ. 遠位債尿管はヘンレ係蹄と連結する。 1. ア, イ 2. ア, オ 3. イ, ウ 4. ウ, エ 5. エ, オ A. 5 (エ, オ)	<b>問題 8</b> 体表から容易に筋収縮を触知できるのはどれか。2つ選べ。 1. 梨状筋 2. 外閉鎖筋 3. 小殿筋 4. 大腿筋膜張筋 5. 長内転筋 A. 4 と 5

「X(2)タイプ」問題は、「2つとも正答で正解採点」となるため、このタイプの問題が増加するということは、言い換えれば受験生にとって**難易度が上がる**ということになります。平成 15 年 3 月の「第 38 回 国家試験」から「X(2)タイプ」問題が導入されてきましたが、その時点では「理学療法士・作業療法士ともに実地問題に限って出題する」とされていました。過去の「X(2)タイプ」問題は「第 38 回、第 39 回」で実地問題に 2 問のみ出題、「第 40 回、第 41 回」で実地問題に 4 問のみ出題されました。

ところが今回の「第 42 回」では、「**X(2)タイプ**」の出題数が**大幅に増加**し、また出題領域も PT・OT 専門分野の実地問題(午前の部の問題 1~41)のみならず、PT・OT 専門分野の一般問題(午前の部の問題 41~100)、共通分野(午後の部の問題 1~100)にまで及び、「X(2)タイプ」の出題数は、PT 合計 **51 問** / 200 問、OT 合計 **45 問** / 200 問でした。その問題配分を以下の表 2 に示します。

表 2 第 42 回 PT・OT 国試の問題配分

問題番号 (配点)	「X(2)タイプ」	「Aタイプ」	「Kタイプ」	計
理学療法 { 実地問題(問題 1~40) (3点) 一般問題(問題 41~100) (1点)	13 } 計 29 16 }	26 } 計 70 44 }	1 } 計 1 0 }	100
作業療法 { 実地問題(問題 1~40) (3点) 一般問題(問題 41~100) (1点)	8 } 計 23 15 }	32 } 計 75 43 }	0 } 計 2 2 }	100
共通問題 一般問題(問題 1~100) (1点)	21	77	2	100

次に出題内容についてですが、「理学療法専門分野の実地問題」では、① 理学療法基礎分野から：「徒手筋力テスト、関節可動域テスト、代償運動、義肢・装具、歩行分析、身体運動に関するテコの計算、運動発達年齢、乳幼児姿勢反応、ADL 動作など」、② 疾患別理学療法分野から：「脳卒中片麻痺(CT 像を含む)、パーキンソン病、脊髄損傷、大腿切断、関節リウマチ、呼吸不全、心疾患(心電図を含む)、筋ジストロフィー、脳性麻痺児など」が図表、写真入りで例年と大差なく出題されました。ただ実地問題中の物理療法は1問のみでした。「理学療法専門分野の一般問題」では、「理学療法全分野」にわたって広く出題されました。特に目立って新しいと思われる出題内容はありませんでした。

「作業療法専門分野の実地問題」では、① 作業療法基礎分野から：「徒手筋力テスト、関節可動域テスト、義手、家屋改修、基礎作業技術、集団作業療法など」、② 障害別作業療法分野から：「脳卒中片麻痺、高次脳機能障害、パーキンソン病、関節リウマチ、脊髄損傷、上肢末梢神経障害、筋萎縮性側索硬化症、脳性麻痺児、統合失調症、躁うつ病、恐怖症、不安神経症、境界型人格障害、広汎性発達障害など」が図表、写真入りで例年通り出題されました。「作業療法専門分野の一般問題」では、「作業療法全分野」にわたって広く出題されていました。ただし4問だけ一般問題領域に新出問題がありました。「医療観察法」「シンナー乱用」「作業評価(BADS, POMS, TMT など)」「精神障害者地域生活移行支援アセスメント(SCT, BPRS, REHAB など)」などです。それら以外はすべて例年までの内容と変わりありませんでした。

「PTOT 共通分野(基礎医学・臨床医学)」について、「基礎医学」分野は48問、「臨床医学」分野は52問出題されており、問題数の配分は例年と同様でした。その内容について、「基礎医学」分野は「解剖学・生理学・基礎運動学」で例年通りの範囲で出題されており、「臨床医学」分野は「病理学・内科学・整形外科学・臨床神経学・精神医学・臨床心理学・リハビリテーション医学・医学概論」の範囲から、これも例年と変わらない内容で出題されていました。3問ほど新しい用語の問題があり、「治療関係における感情疎通性(カタルシス、ラポール、リエゾン、コンプレックス、モデリング)」「クリニカルパス」「ICFの用語説明」でした。

## 第 42 回 PT・OT 国家試験の合格率は低下した！

第 42 回 PT・OT 国試の合格者数・合格率を以下の表 3 に示します。

表 3 第 42 回 PT・OT 国試の合格者数・合格率

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士 (PT) 国家試験	7,036	6,559	93.2 %
作業療法士 (OT) 国家試験	5,131	4,400	85.8 %

厚生労働省発表による合格基準を以下の表 4 に示します。理学療法士・作業療法士ともに、一般問題を1問1点(160問で160点満点)、実地問題1問3点(40問で120点満点)の両者の総得点(280点満点)で、次の合格基準のすべてを満たした者を合格とします。

表 4 PT・OT 国試の合格基準

	総得点	実地問題
理学療法士 (PT) 国家試験	167 点以上 / 279 点	43 点以上 / 120 点
作業療法士 (OT) 国家試験	168 点以上 / 280 点	43 点以上 / 120 点

PT の合格基準総得点が 279 点になっていますが、これは PT 専門問題に採点除外問題があったからで、またその他にも専門分野・共通分野ともに複数選択肢が正解となる問題があり、採点基準が厚生労働省のホームページで公開されています(表 5)。

表5 PT・OT 国試の採点基準

問題分野	問題	問題種別	理由	採点	配点
PT 専門	{	2 実地問題	選択肢に複数の正解あり	複数選択肢正解	3点
		42 一般問題	問題表現が不明確	採点除外	総得点-1点
OT 専門	{	99 一般問題	問題表現があいまい	3通り解答正解	1点
		11 実地問題	問題図が不明瞭	複数選択肢正解	3点
共通		9 一般問題	選択肢に3つの正解あり	3選択肢正解	1点

過去の「理学療法士・作業療法士 国家試験合格率」については、表6-1、表6-2と巻末のグラフに示します。

表6-1 理学療法士 (PT) の合格率

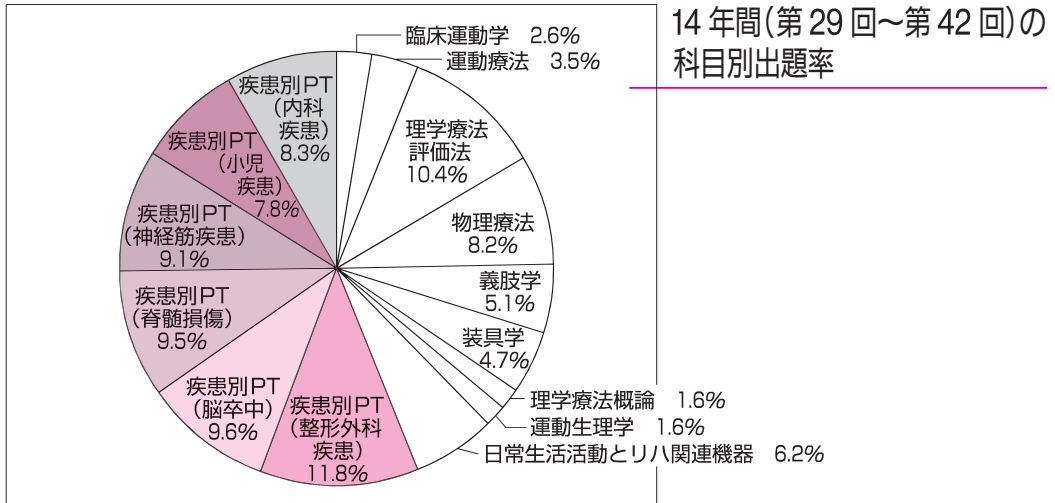
実施回	合格者/受験者(人)	合格率 (%)	合格基準 (点)
37回	3,354 / 3,503	95.7	総合 165 以上 / 275 かつ実地 40 以上 / 117
38回	3,629 / 3,686	98.5	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
39回	4,199 / 4,289	97.9	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
40回	4,843 / 5,102	94.9	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
41回	6,002 / 6,155	97.5	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
42回	6,559 / 7,039	93.2	総合 167 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120

表6-2 作業療法士 (OT) の合格率

実施回	合格者/受験者(人)	合格率 (%)	合格基準 (点)
37回	2,587 / 2,854	90.6	総合 167 以上 / 278 かつ実地 41 以上 / 120
38回	2,937 / 3,205	91.6	総合 165 以上 / 275 かつ実地 40 以上 / 117
39回	3,313 / 3,469	95.5	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
40回	3,443 / 3,897	88.4	総合 168 以上 / 279 かつ実地 43 以上 / 120
41回	4,185 / 4,571	91.6	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120
42回	4,400 / 5,131	85.8	総合 168 以上 / 280 かつ実地 43 以上 / 120

# 出題傾向と対策の要点

■臨床運動学, 運動療法, 理学療法評価法, 物理療法, 義肢学, 装具学, 理学療法概論, 運動生理学, 日常生活活動(ADL) とリハビリテーション関連機器に関する「出題傾向と対策の要点」は, 姉妹編「理学療法士・作業療法士 国家試験 必須ポイント 理学療法 基礎編」(本体4,200円)の「付録」に掲載しています。



## 疾患別 PT (整形外科疾患) (165)

### ① 1年当たり平均出題数 (出題率)

- ・12~13問 (11.8%)

### ② 一般的な出題傾向

- ・整形外科分野は理学療法専門分野のなかで最も出題数が多い。
- ・整形外科分野では「慢性関節リウマチ」に関する問題が最も多く約25%, 続いて「膝関節疾患」に関する問題が約20%, 「骨折」に関する問題が約20%である。
- ・「骨折」に関しては圧倒的に「大腿骨頸部骨折」が多く、「股関節疾患」に関しては「頸部骨折」と「変形性股関節症」をあわせると「骨関節疾患」の問題中で出題数が(膝関節疾患よりも)多くなる。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

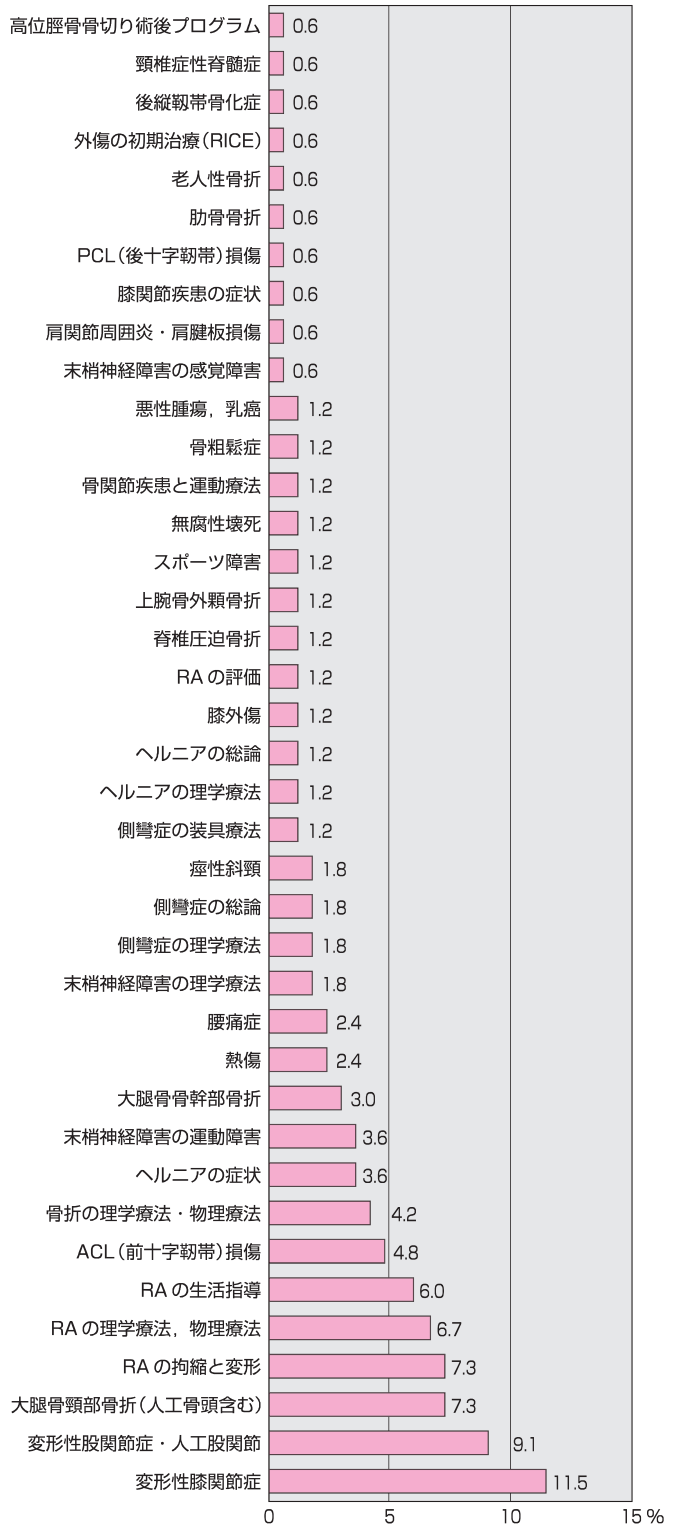
- ・疾患別 PT 整形外科の出題数が例年と比較して多い(15問)。
- ・例年と比較して「関節リウマチ」の問題が1問と少なく, 股関節に関する問題(変形性股関節症, 大腿骨頸部骨折, 人工骨頭など)が4問, 骨折に関する問題が5問も出題されていた。

- ・腰痛症が6年ぶり, スポーツ障害が10年ぶりに出題された。
- ・外傷後の応急処置(RTCE)が初めて出題された。
- ・難易度は例年並みである。

### ④ 対策の要点

- ・「下肢の骨関節疾患」のうち特に「変形性股関節症」「変形性膝関節症」, また各々に対応する「人工関節術後の理学療法」についてしっかりと学習しよう。
- ・「慢性関節リウマチ」に関しては, 「変形拘縮」と「対応する理学療法, 物理療法」を押さえよう。
- ・「変形性関節症」の問題は症例問題として実地問題に出題され, 「慢性関節リウマチの変形拘縮」は実地問題として図入りで出題され, 両者ともに配点が高いため, しっかりと覚えておこう。
- ・整形外科分野からの実地問題出題に関しては, 年度によって出題数の差はあるが, だいたい5~8問出題されており, 非常に配点が高いことを意識しておこう。

- 実地問題に出題されるのは、「変形性膝関節症」が最も多く、後は年度によりさまざまな項目から出題されているので、全ての項目についてまんべんなく学習する必要がある。
- 過去の実地問題において、「アリス徴候」など全く同問題(同図掲載で質問も同じ)が再出題されているので、過去の実地問題は必ず理解しておこう。



## 過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100% の出題率
  ほぼ 80% 程度の出題率
  ほぼ 50% 程度の出題率
  低出題率の領域

出題項目	合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
慢性関節リウマチ (35)	拘縮と変形	12		2	1		1	2		1		1		2	2	
	理学療法, 物理療法	11			1			1		2	1	1		2	3	
	生活指導	10	1		1			2		1				1	3	1
	評価	2										1	1			
膝疾患 (31)	変形性膝関節症	19	1	1	3	2	1	1	2	1	2	2	1			2
	ACL (前十字靭帯) 損傷	8			1	1	1	1		1			2		1	
	膝外傷	2				2										
	膝関節疾患の症状	1		1												
	PCL (後十字靭帯) 損傷	1						1								
骨折 (30)	大腿骨頸部骨折 (人工骨頭含む)	12	1	1	1	1					3	2	1		2	
	理学療法, 物理療法 装具療法, 牽引	7	4			1			1	1						
	大腿骨骨幹部骨折	5									2	2				1
	脊椎圧迫骨折	2			1				1							
	上腕骨外顆骨折	2											2			
	肋骨骨折	1													1	
	老人性骨折	1										1				
	変形性股関節症・人工股関節	15	3	1			1	1	3	2	1	1	1			1
末梢神経障害 (10)	運動障害	6	1			1			1					1	1	1
	理学療法	3					1			2						
	感覚障害	1										1				
側彎症 (8)	理学療法	3				1					1	1				
	総論	3											1	1		1
	装具療法	2								1						1
肩関節周囲炎・肩腱板損傷	6	1	1	2										1	1	
ヘルニア (5)	症状	2									1	1				
	理学療法	2											1		1	
	総論	1											1			
熱傷	4				1		2					1				
腰痛症	4	1						1							1	1
痙性斜頸	3			1							1					1
スポーツ障害	2	1											1			
無腐性壊死	2										1			1		
骨関節疾患と運動療法	2			1			1									
骨粗鬆症	2													1	1	
悪性腫瘍, 乳癌	2							1						1		
外傷の初期治療 (RICE)	1	1														
後縦靭帯骨化症	1		1													
頸椎症性脊髄症	1									1						
高位脛骨骨切り術後プログラム	1												1			
総 合 計	165	15	8	13	10	5	12	10	13	15	11	15	10	16	12	

# 疾患別 PT（脳卒中）（135）

## 過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
 
 ほぼ 80 % 程度の出題率
 
 ほぼ 50 % 程度の出題率
 
 低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29		
脳卒中の理学療法 (80)	訓練時期 (34)	回復期	19		1	4	2	1		1	2	1	1		1	3	2	
		急性期	14	3				1		2	1	1	4		1		1	
		慢性期	1															1
	歩行 (29)	下肢障害(内反尖足, 反張膝)	13	1		2		1	1	1	1		2	1	2	1		
		異常歩行(歩行分析を含む)	9	2	1	1	1	1		1	1	1						
		理学療法	4		1						1					1	1	
		阻害因子, 転倒	3						1	1			1					
	肩の障害, 肩手症候群	8	1	1	1		1			1					1	1	1	
	総合問題	3				1				1							1	
	リスク管理	3							1								2	
	種々の合併症の理学療法	2									1	1						
	バーサル・インデックス	1	1															
脳卒中の ADL (12)	ADL 指導	9		1	1	1		1				2	1	1	1			
	退院指導	3						1					1				1	
高次脳機能障害(失語, 失行, 失認など)		13	1	1	1	3	1		1	1		1					3	
ステージ別の促通手技, 運動療法		10			2		4	1	1		1						1	
脳卒中の病巣		6				1		2	2								1	
摂食嚥下障害, 球麻痺		3	1		1												1	
脳卒中の評価		3				1				1							1	
脳卒中の装具		2										1	1					
反射反応		2										1	1					
プッシャー症候群(対策・運動療法を含む)		2	1	1														
脳出血の頭部 CT 像		1		1														
認知症		1															1	
総合計		135	11	8	13	11	10	7	11	10	6	12	6	7	10	14		



### ① 1年当たり平均出題数（出題率）

- ・10～13問（9.8％）

### ② 全般的な出題傾向

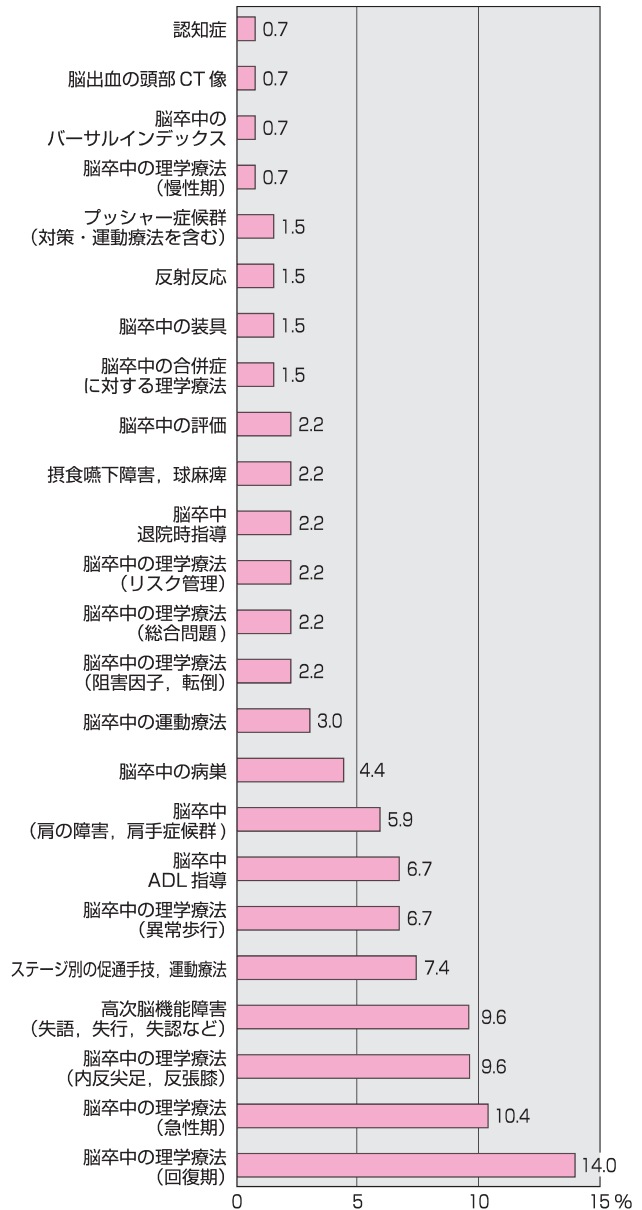
- ・「脳卒中の理学療法分野」は「整形外科分野」に次いで出題数が多い。
- ・「疾患別理学療法」では「脳卒中片麻痺」に関する問題が最も多く出題されている（「整形外科分野」はあらゆる骨関節疾患が出題されているため）。
- ・「脳卒中分野」の出題は実地問題としての症例問題がほとんどで、毎年5問出題されていて配点が非常に高い（実地問題の出題は、第29回が9問、第31回が2問、後の回は全て5問出題されている）。
- ・「脳卒中の歩行障害」に関する問題、「高次脳機能障害」に関する問題も多い。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・脳卒中片麻痺の異常歩行とその対策、肩関節障害、高次脳機能障害、プッシュャー症候群の問題が昨年と同様に出題された。
- ・昨年との違いは、異常歩行に関する動作分析、急性期（早期）理学療法の問題が出たことである。
- ・症例に関するバーサルインデックスの問題は新出問題であり、バーサルインデックスの臨床応用である。
- ・また実地問題のほとんどが症例を通して考える方式に変化しており、臨床実習で患者を通して経験していれば問題解決しやすいが、患者経験が少なくイメージ力が低いと難問といえるであろう。
- ・問題数は平均的である。

### ④ 対策の要点

- ・毎年6～7問が症例問題としての実地問題で出題されているので配点が高く、上述の項目（「急性期、回復期の理学療法」「異常歩行とその対策」）に重点を置いて学習すべきである。
- ・特に「異常歩行」に関しては「片麻痺独特の歩行障害」を実際に自分で真似できるまで習得すること。



# 疾患別 PT（脊髄損傷）（133）

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
 
 ほぼ 80 % 程度の出題率
 
 ほぼ 50 % 程度の出題率
 
 低出題率の領域

出題傾向		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
頸髄損傷(56)	第 4 頸髄節機能残存 (C4)	1											1				
	第 5 頸髄節機能残存 (C5)	4						1			1		1		1		
	第 6 頸髄節機能残存 (C6)	26	2	2	3	1	2	2	1	1	3	2	2	2			3
	第 7 頸髄節機能残存 (C7)	13	1		2	1			1	1	2		1			3	1
	第 8 頸髄節機能残存 (C8)	4						2	1						1		
	頸髄損傷の総合問題	8			1	1	1			1	1		1				2
胸髄損傷(12)	第 1 胸髄節機能残存 (Th1)	1				1											
	第 7 胸髄節機能残存 (Th7)	2				1										1	
	第 10 胸髄節機能残存 (Th10)	1										1					
	第 12 胸髄節機能残存 (Th12)	8								1	1	1	2		1	2	
腰髄損傷(4)	第 1 腰髄節機能残存 (L1)	2										1				1	
	第 3 腰髄節機能残存 (L3)	1	1														
	対麻痺の総合問題	1														1	
脊損総合問題(61)	機能残存レベルと可能な動作	25		2	2	2	2	1	1		1	4	1	3	3	3	
	合併症, 変形拘縮	17	2	1		2	1	1	1	2	1	1	2	2		1	
	車椅子	3									1	1				1	
	部分損傷	3		1						1				1			
	呼吸理学療法	3		1					1		1						
	訓練(斜面台, プッシュアップなど)	3	1						2								
	評価法 (ASIA を含む), 機能的予後	2	1					1									
	機能残存レベルと装具	1	1														
	褥瘡対策	1												1			
	運動療法の効果	1															1
	脊髄腫瘍	1								1							
	排尿訓練	1							1								
総 合 計	133	9	7	8	9	8	9	9	8	10	12	10	9	13	12		

### ① 1年当たり平均出題数（出題率）

- ・ 8～9問（9.8%）

### ② 全般的な出題傾向

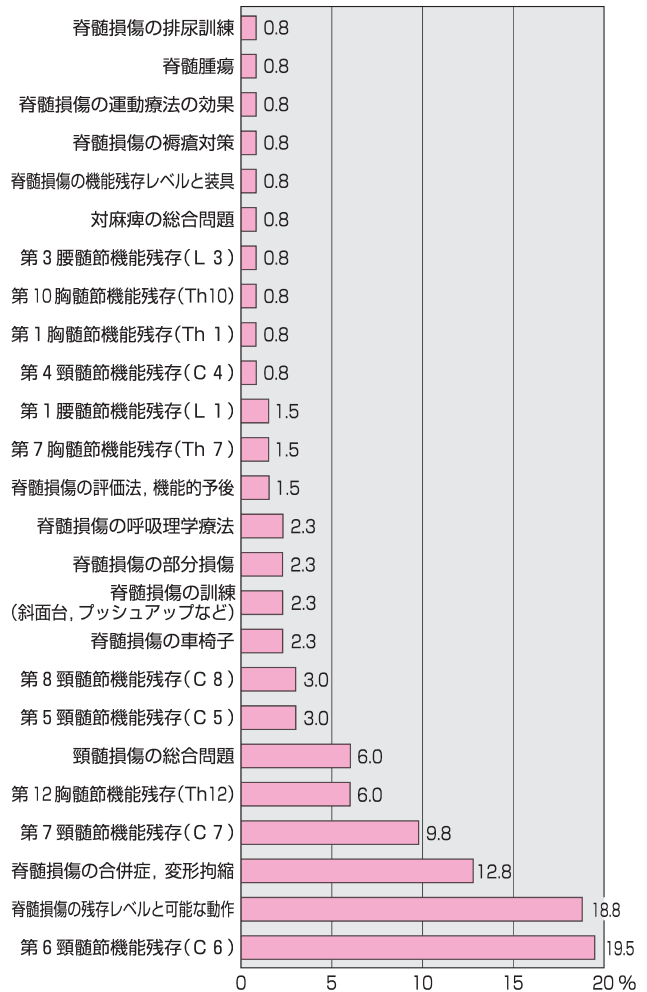
- ・ 「第6頸髄損傷」「第7頸髄損傷」「脊髄損傷の残存レベルと可能な動作」「脊髄損傷の合併症」の4大項目に集中して出題されている。
- ・ 疾患別理学療法の問題としては「脳卒中片麻痺」に次いで2番目に多い出題数である。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・ 例年通り第6頸髄損傷，第7頸髄損傷が出題され，出題数も例年並みである。
- ・ また例年通り合併症や変形拘縮も出題されている。
- ・ 今回の新出問題として，第3腰椎損傷，損傷レベルとそれに対応する装具，ASIA表があげられる。
- ・ 他の疾患別理学療法と同様に疾患に対応した評価や理学療法問題が多かった。

### ④ 対策の要点

- ・ 「第6頸髄損傷」「第7頸髄損傷」の残存筋と可能な動作，合併症，対策としての補装具や自助具，自宅復帰へ向けての住宅改装，ADL指導をしっかりと押さえよう。
- ・ 頸髄損傷の症例問題では「動作図」が掲載されているので，特に肘関節部や手部に注目し，「前腕回内位か？回外位か？」「手部の握りが出現しているか？」などを確認して，損傷部の違いを確認しよう。



# 疾患別 PT（神経筋疾患）（127）

過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100% の出題率
  ほぼ 80% 程度の出題率
  ほぼ 50% 程度の出題率
  低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
パーキンソン病(34)	理学療法	14	2	1	2	1		2			1	1	1		2	1
	ステージ分類	13		1		1	2		2	1	2		1	1	1	1
	障害像, 症状	7	1	2								1	1	1		1
デュシェンヌ型筋ジストロフィー(33)	障害像, 症状	13	1	1		1			2				2	1	3	2
	ステージ分類	8			1	1	1		1	1	1			1		1
	理学療法	6	1	1	1	1				1	1					
	動作, 登はん性起立	4	1	1				1					1			
	補装具, 車椅子	2			1										1	
多発性硬化症	13	2	1	2	1	1	1				1	1	1		1	1
脊髄小脳変性症, 小脳出血, 運動失調	11	2		1		1						1		1		1
ギラン・バレー症候群(9)	理学療法	5		1					1		1		1		1	
	障害像	4	1	1				1						1		
筋萎縮性側索硬化症	8	1	1	1	1	1	1							1		1
多発性筋炎	4	1			1	1										1
外傷性脳損傷	3		2								1					
多発性神経炎(多発性ニューロパチー)	2						1			1						
反射性交感神経性ジストロフィー	2							1			1					
びまん性軸索損傷, 頭部外傷	2					1			1							
ポリオ(単麻痺)	1		1													
髄膜炎後の記憶力障害	1		1													
重症筋無力症	1			1												
低酸素脳症	1			1												
神経筋疾患の理学療法	1												1			
ヘルペス脳炎	1															1
総合計		127	13	15	11	9	8	7	8	5	10	5	9	7	11	9

### ① 1年当たり平均出題数（出題率）

- ・ 8～11問（11.8％）

### ② 全般的な出題傾向

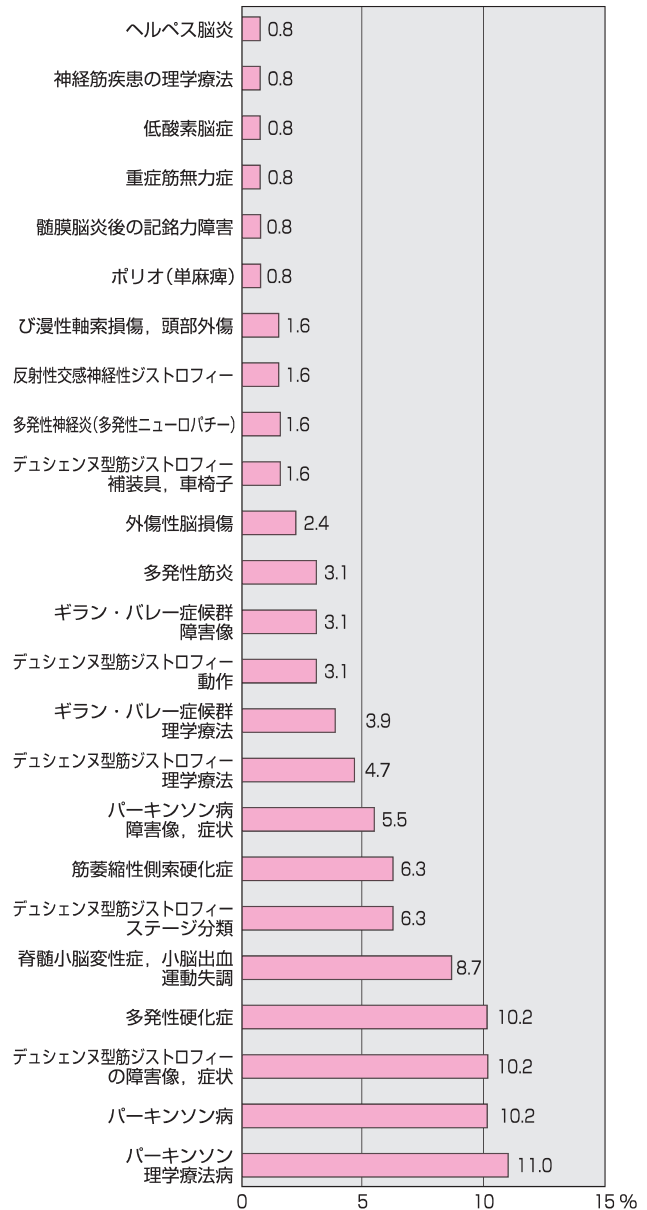
- ・ 「パーキンソン病」「デュシェンヌ型筋ジストロフィー症」「多発性硬化症」「ギラン・バレー症候群」が4大疾患である。
- ・ 「パーキンソン病」では「ヤールの障害度分類」「理学療法」が必ず出題されている。
- ・ 「デュシェンヌ型筋ジストロフィー症」では「症状」「ステージ」が必出である。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・ 神経筋疾患の疾患内容は例年とほぼ同様であり、「パーキンソン病、デュシェンヌ型筋ジストロフィー症、多発性硬化症、小脳性疾患、ギラン・バレー症候群、筋萎縮性側索硬化症、多発性筋炎」が出題されている。
- ・ いずれの問題もその症例の障害像と理学療法がほとんどで、難易度はそれほど高くない。
- ・ 基本的な障害像、疾患に対する理学療法を学ぶことで十分に対応できると思われる。
- ・ 近3年は10問以上出題されており、近年の高齢社会で増加傾向にある神経筋疾患は、来年度以降も10問以上出題されると思われる。

### ④ 対策の要点

- ・ 「パーキンソン病のヤールの障害度分類」「デュシェンヌ型筋ジストロフィーの症状とステージ分類」に関しては必出なのでしっかりと学習しよう。
- ・ 毎年、実地問題では「パーキンソン病の理学療法、ADL指導」が必ず出題、次いで「デュシェンヌ型筋ジストロフィーの症状」の問題の出題が多い。実地問題は図掲載で出題されているので、具体的な動作を実際に（自分の身体を使って）模倣学習し、その方法論を獲得しよう。



# 疾患別 PT (小児疾患) (109)

## 過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
  ほぼ 80 % 程度の出題率
  ほぼ 50 % 程度の出題率
  低出題率の領域

出題項目			合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	
脳性麻痺(44)	運動療法(37)	痙直型両麻痺	19	2	1		3	1	2	2	2		1	1	1	1	2	
		アテトーゼ	7			1		1	1	1	2							1
		痙直型四肢麻痺	4		2					1		1						
		タイプ別	3			1		2										
		片麻痺	2								1			1				
		痙直型(総合)	1															1
		ハンドリング	1			1												
	反射・反応	3	1						1						1			
	摂食・嚥下	1															1	
	病型別の症状・現象	2	1	1														
病型別着衣動作	1						1											
運動発達(30)	正常運動発達段階	22	2	1	3	2	2	1		1	3			2	2	1	2	
	検査	7	2		1							1			2		1	
	発達障害	1											1					
反射・反応(21)	原始反射(12)	原始反射	8		1					1				2	1		3	
		消失時期	4	1					1	1		1						
	立ち直り反応・ 平衡反応(9)	出現消失時期	5		1	1	1					1					1	
		検査	2				1								1			
		総合問題	2								1		1					
二分脊椎	7		1				1	1	1			1		1		1		
リスク管理	2											1	1					
小児疾患と理学療法	1			1														
ダウン症	1			1														
ペルテス病	1													1				
先天性多発性関節拘縮症	1															1		
先天性股関節脱臼症	1												1					
総合計		109	9	8	10	7	8	8	8	7	6	7	8	7	5	11		

### ① 1年当たり平均出題数（出題率）

- ・ 7～8問（7.7％）

### ② 全般的な出題傾向

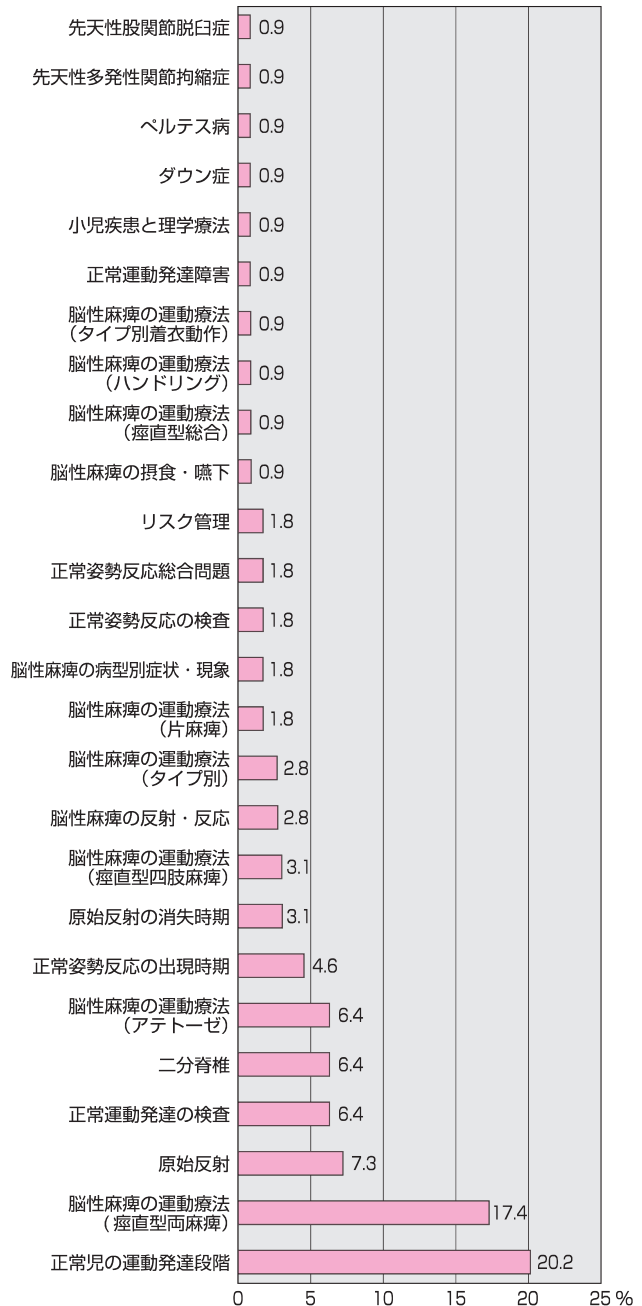
- ・ 毎年、「脳性麻痺」が3問、「正常児の発達段階」が2～3問、「原始反射・正常姿勢反射」が1～2問、「その他の小児疾患」が1問の配分で出題されている。
- ・ 「反射反応」に関しては、「原始反射」と「正常姿勢反射」のどちらか一方が出題されている。
- ・ 「小児疾患」「正常児の発達段階」「原始反射、正常姿勢反射」に関する実地問題の出題は例年約3問である。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・ 小児疾患に関する問題の内容も出題数も例年通りで、「痙直型両麻痺、正常運動発達段階」が、2問ずつ出題されており、十分対応できる問題であった。
- ・ 特別な進出問題はなく、「原始反射の消失時期、脳性麻痺児の反射反応」などは5～6年間にも出題されている。

### ④ 対策の要点

- ・ 「原始反射」「正常発達段階」「脳性麻痺児の評価法、運動療法、ADL動作」に関して、実地問題が必ず3問出題されるので、これらの項目に関する「小児の映像」を何度も見て、映像学習によるイメージ化を進める。
- ・ 特に「痙直型両麻痺」と「正常児の運動発達段階」の出題が多いので、これに関しては特にしっかりと学習しておこう。
- ・ 過去に出題された図掲載の実地問題は再出題される可能性が高いので、何度も見直す必要がある。



# 疾患別 PT (内科疾患) (116)

## 過去 14 年間の出題頻度

ほぼ 100 % の出題率
  ほぼ 80 % 程度の出題率
  ほぼ 50 % 程度の出題率
  低出題率の領域

出題項目		合計	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
呼吸器疾患 (56)	慢性閉塞性肺疾患	13	3		1	1	1	1	1		1	1		1	1	1
	呼吸理学療法	11		1	1		1	3			2	2	1			
	体位排痰法 (体位ドレナージ)	8	1	1		1				1			1		1	2
	呼吸機能評価 (正常・異常・フローボリューム曲線)	8	2	1			1			1	1		1	1		
	肺癌, 腫瘍摘出術後	4		1						1				1	1	
	肺気腫	3			1			1		1						
	慢性呼吸不全	3		1		1						1				
	人工呼吸器	2									1		1			
	生活指導	2			2											
	在宅酸素療法	2						1	1							
心疾患 (37)	心筋梗塞	13	1	3		1	1	1	1	1		1		1	1	1
	心電図	12	1	1		1	1	1	1	1	1		2	1		1
	虚血性心疾患	5			2		1	1			1					
	心疾患の運動処方	2		1			1									
	心不全	1	1													
	高血圧	1			1											
	深部静脈血栓症	1						1								
	胸部離解性大動脈瘤	1								1						
	閉塞性動脈硬化症	1												1		
代謝 (21)	糖尿病 (19)	理学療法・運動療法	16	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	2
		計算問題	3			1	1							1		
	慢性腎不全	2							1		1					
血友病	2				1			1								
総合計		116	10	11	10	8	11	10	6	10	9	7	7	6	6	5



### ① 1年当たり平均出題数（出題率）

- ・ 8～10問（7.9％）

### ② 全般的な出題傾向

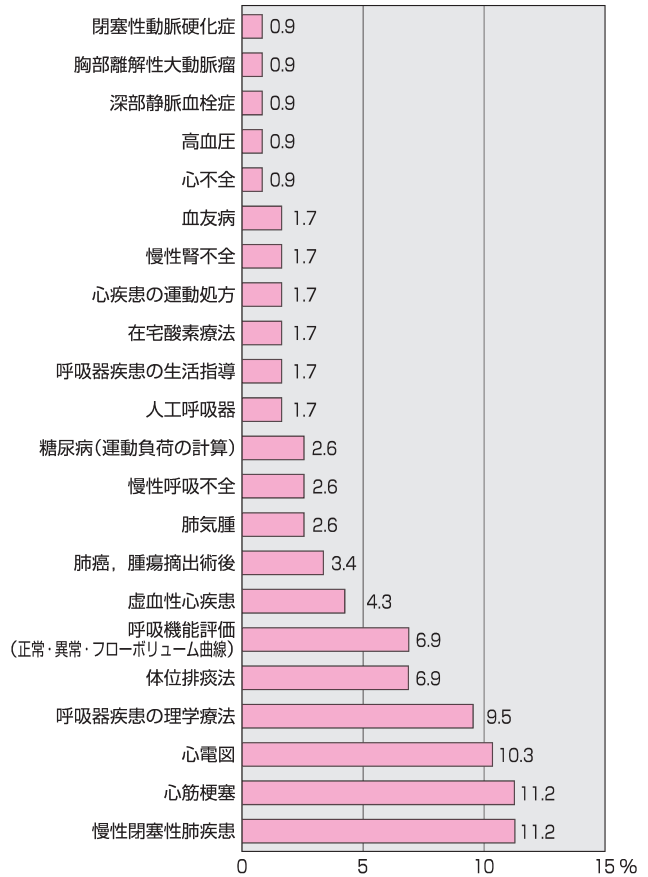
- ・ 「呼吸器疾患」から「慢性閉塞性肺疾患、肺理学療法と体位排痰法」を中心に、毎年約3問出題される。
- ・ 「循環器疾患」から「正常心電図、異常心電図」「心筋梗塞や虚血性心疾患全般」が毎年約2問出題される。
- ・ 「代謝性疾患」から「糖尿病の運動療法とその運動負荷」が毎年1～2問出題される。
- ・ 実地問題は上述3大疾患から毎年、ほぼまんべんなく3題出題されている。

### ③ 第42回国家試験の出題傾向の変化

- ・ 近5年からはほとんど変化なく、呼吸器疾患が6問と最も多い。次いで心疾患3問、糖尿病1問であり、問題配分は例年並みである。
- ・ 呼吸器疾患は「慢性閉塞性肺疾患」のみの出題であった。
- ・ また呼吸機能検査（フローボリュームカーブ）と心電図が例年通り出題された。
- ・ 体位排痰法も例年通り図表で出題された。

### ④ 対策の要点

- ・ 「慢性閉塞性肺疾患（肺気腫を含む）」をしっかりと押さえよう。特に「在宅生活指導や体位排痰法」などは図掲載で実地問題に出やすいので、必ず実際に実習して再学習しよう。
- ・ 「心電図」は図掲載（実地問題）必出。「正常心電図の脈拍数計算」は実地問題に過去10年間で3問（同問題が再出題）、「異常心電図」は「心室性期外収縮、心房細動、心室頻拍」などパターンがわかりやすい図掲載で毎年1問は必ず出題されているので、簡単な図を描けるようになるまで練習しよう。
- ・ 糖尿病は基本的な運動療法の考え方を理解していればわかる問題なので難易度は高くない（その意味からは必ず正解できる問題なのでここで点を落とさないようにしよう）。



MEMO



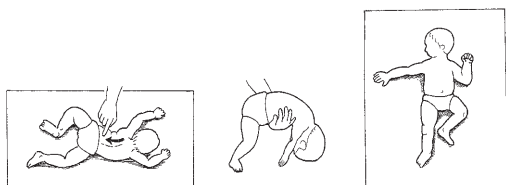
# 第40回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 疾患別編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「疾患別編」には65問を掲載。残り35問は姉妹編「基礎編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

## 1 第40回 理学療法6実

発達障害が予測されるのはどれか。



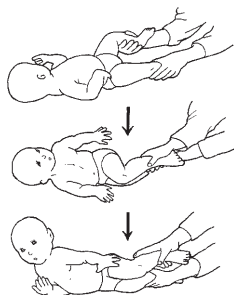
1. 生後1か月 2. 生後2か月 3. 生後3か月



4. 生後6か月 5. 生後7か月

## 2 第40回 理学療法7実

図は乳児の寝返りの誘発反応を示している。正しいのはどれか。



1. 立ち直り反応の誘発に利用される。
2. この反応は股関節屈曲で誘発される。
3. この反応を統合する中枢は延髄にある。
4. 正常発達では9か月以降にみられる反応である。
5. 対称性緊張性頸反射が残存していると誘発されない。

## 3 第40回 理学療法8実

小児の正常発達順序で正しいのはどれか。

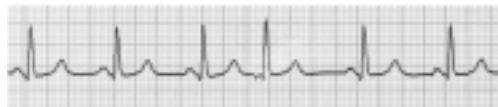


A. そり返り B. 一側上肢凶拳上状 C. 腹這い移動

1. A→B→C
2. A→C→B
3. B→A→C
4. B→C→A
5. C→A→B

## 4 第40回 理学療法9実

心電図と病態との組合せを下に示す。誤っているのはどれか。



1. 上室性期外収縮



2. 心室性期外収縮



3. 心房細動



4. 完全房室ブロック



5. 洞性徐脈

次の文により問題 5・6 に答えよ。

75歳の女性。左膝は、変形と痛みのため、可動域が屈曲20～90°であった。左人工膝関節手術(セメント使用)を受けた。術前の膝関節エックス線単純正面立位像(写真A)、術後の膝関節エックス線単純正面像(写真B)および側面像(写真C)を下に示す。

写真A



写真B



写真C



### 5 第40回 理学療法10 実

人工関節にした理由で適切でないのはどれか。

1. 外反変形が強い。
2. 軟骨の変性が高度である。
3. 人工関節は10～15年の使用に耐えられる。
4. 可動域の改善が望める。
5. 除痛効果が得られる。

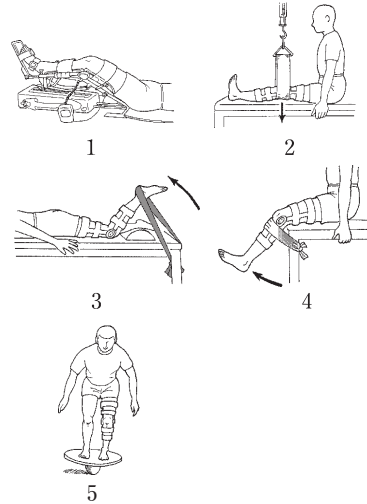
### 6 第40回 理学療法11 実

術後2週の運動療法で適切でないのはどれか。

1. 足関節の底背屈運動
2. 大腿四頭筋の等尺性運動
3. 体幹筋の強化
4. 膝 CPM (持続的他動運動)
5. 平行棒内免荷歩行訓練

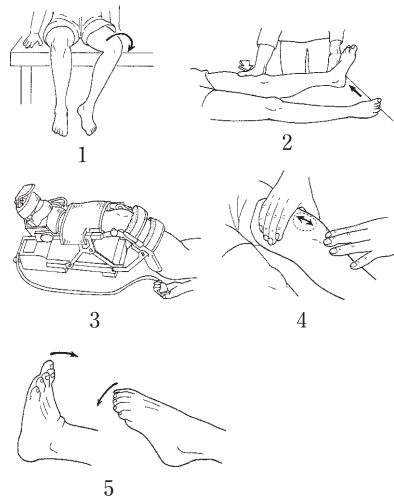
### 7 第40回 理学療法12 実

前十字靭帯再建術後1週での理学療法で誤っているのはどれか。



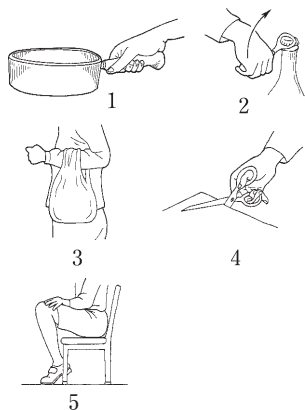
### 8 第40回 理学療法13 実

63歳の男性。転倒して左大腿骨頸部内側骨折を受傷し、骨接合術を受けた。接合部のエックス線単純写真を下に示す。術後早期の理学療法で適切でないのはどれか。

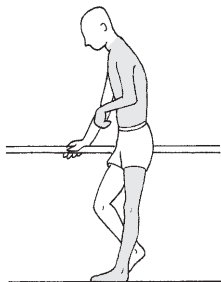


## 9 第40回 理学療法14 実

関節リウマチ(スタインブロッカーのステージⅢ、クラスⅣ)のADL指導で正しいのはどれか。



次の文により問題10・11に答えよ。  
62歳の男性、脳出血による左片麻痺。発症後1か月で回復期リハビリテーション病棟に転棟した。左下肢のブルストローム法ステージはⅢ。平行棒内にて片脚立位で図のような肢位を認めた。



## 10 第40回 理学療法15 実

理学療法で適切でないのはどれか。

1. 左膝屈曲位での立位歩行訓練
2. 左下肢屈筋共同運動の促進
3. 左アキレス腱の持続的伸張
4. 膝装具を装着した立位歩行訓練
5. 患側の補高

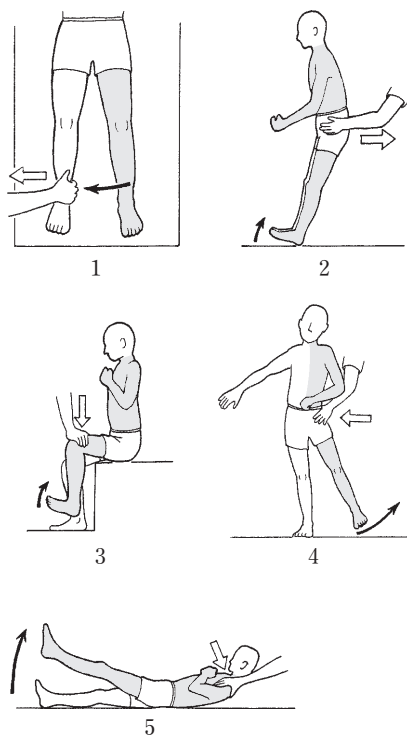
## 11 第40回 理学療法16 実

健側下肢の前方振り出し動作の指導過程を順番に示した。適切でないのはどれか。

1. 患脚前で両脚均等に体重をかけて立つ。
2. 患側膝関節は軽度屈曲位にする。
3. 体重を患側に移動する。
4. 上体を患側に回旋する。
5. 重心を残して患側片脚立位になる。

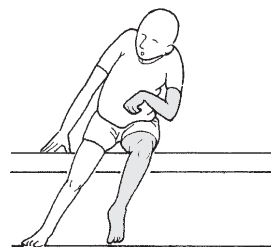
## 12 第40回 理学療法17 実

左片麻痺患者。ブルストローム法ステージ下肢Ⅴ。正常な反応を引き出す方法として適切なのはどれか。2つ選べ。



## 13 第40回 理学療法18 実

68歳の男性、脳梗塞による左片麻痺。発症後3か月時、腰掛座位において図のように右上下肢で接触面を強く押して左側に転倒する現象を認めた。座位バランス獲得のための理学療法で適切でないのはどれか。



1. 鏡で姿勢の傾きを認知させる。
2. 座面を上げて両下肢を浮かせる。
3. 治療者が左側から繰り返し押し返す。
4. 右上肢を前方のテーブルに載せる。
5. 点滴棒など垂直指標に体幹を合わせる。

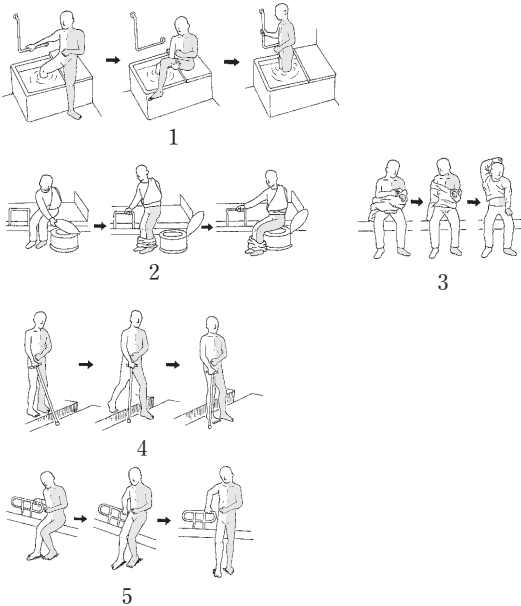
#### 14 第40回 理学療法 19 [実]

78歳の男性。58歳時に肺気腫、60歳時に高血圧を指摘されている。70歳時に脳梗塞による左片麻痺。現在、独歩可能で降圧薬を服用し、経皮的酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)をモニターし、自宅で生活している。訪問リハビリテーション時の血圧は158/88 mmHg、心拍数は70/分であった。日常生活指導で適切でないのはどれか。

1. 運動時の心拍数の上限は80/分とする。
2. 運動中にSpO<sub>2</sub>が85%に下がったら安静にする。
3. 収縮期血圧が190 mmHgを越えたら安静にする。
4. 昼食後は1時間の休憩をとる。
5. 口すぼめ呼吸を指導する。

#### 15 第40回 理学療法 20 [実]

左片麻痺患者のADL指導で誤っているのはどれか。



#### 16 第40回 理学療法 21 [実]

30歳の男性。痙性斜頸。随意的に頭部を正中位に向けることは可能だが、すぐに右向き斜位になる。治療法として適切でないのはどれか。

1. 手を軽く顔面に添えるように指導する。
2. 睡眠を十分にとるように指導する。
3. 広頸筋の筋力増強訓練を行う。
4. EMG バイオフィードバックを行う。
5. 左胸鎖乳突筋ヘボツリヌス毒を注射する。

#### 17 第40回 理学療法 22 [実]

70歳の男性。パーキンソン病。ヤールの重症度分類ステージV。この時期のリハビリテーションで誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 発声訓練
3. 呼吸訓練
4. 歩行訓練
5. 電動ベッドの導入

#### 18 第40回 理学療法 23 [実]

40歳の男性。筋萎縮性側索硬化症。発症から2年で、下肢には軽度の痙性麻痺が認められ、膝折れやつまずきなどの歩行障害が出現している。上肢は筋萎縮が著明で食事や衣服着脱は全介助。構音障害も出現している。この時期の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 呼吸訓練
2. 上肢のROM訓練
3. 上肢の抵抗運動訓練
4. 立位バランス訓練
5. 短下肢装具での歩行訓練

次の文により問題19・20に答えよ。

9歳の男児。デュシェンヌ型筋ジストロフィー。介助なしに歩行可能で、椅子からの立ち上がりも可能であるが、階段昇降はできない。

#### 19 第40回 理学療法 24 [実]

この時期の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 大腿四頭筋の筋力維持訓練
2. 体幹装具装着での歩行訓練
3. 下腿三頭筋の伸張運動
4. 四つ這い移動運動
5. 徒手胸郭拡張訓練

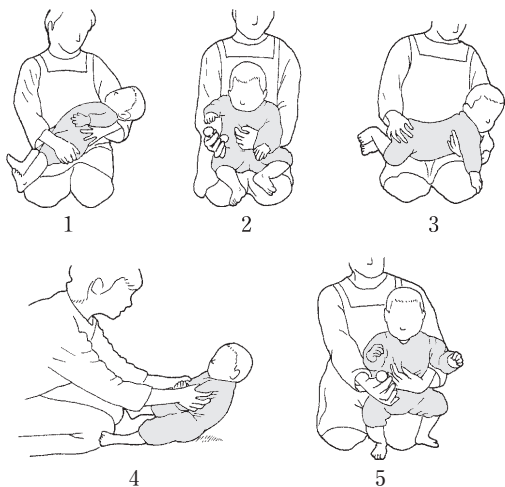
#### 20 第40回 理学療法 25 [実]

1年後、歩行が不安定となり、学校の洋式トイレからの立ち上がりで友達の助けが必要となった。厚生省筋萎縮症研究班の機能障害度分類のステージはどれか。

1. ステージ2
2. ステージ3
3. ステージ4
4. ステージ5
5. ステージ6

**21** 第40回 理学療法 27 **実**

脳性麻痺児のハンドリングで適切でないのはどれか。

**22** 第40回 理学療法 28 **実**

70歳の男性。身長170cm、体重54kg。肺気腫による慢性呼吸不全で在宅酸素療法を行っている。自宅での生活指導として正しいのはどれか。

1. 下肢の筋力強化を行う。
2. 体重を増やさないように食事制限を行う。
3. 息切れがない時は酸素投与の必要はない。
4. 息を吸いながら階段を昇り、息を吐く時には立ち止まる。
5. 1日のエネルギー消費量を減らす。

**23** 第40回 理学療法 29 **実**

54歳の男性。肺塞栓に併発した低酸素脳症。意識障害は2か月で回復し、歩行も2年間で介助レベルまで回復した。運動時の上肢のミオクロームス、小刻み歩行、寡黙、認知障害や自発性低下がある。治療アプローチで誤っているのはどれか。

1. 上肢の素早い運動
2. 四つ這いでのバランス訓練
3. メトロノームを使った歩行
4. 低い台からの立ち上がり
5. 日記を用いた記憶の代償

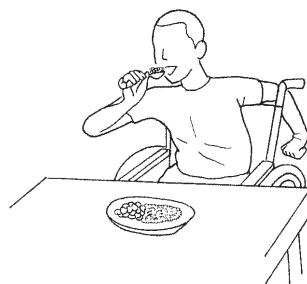
**24** 第40回 理学療法 30 **実**

52歳の男性。II型糖尿病。身長160cm、体重70kg。エルゴメーター運動負荷試験で、定常状態時の酸素摂取量は0.98 l/分であった。このときの強度はどれか。

1. 約2 METs
2. 約3 METs
3. 約4 METs
4. 約5 METs
5. 約6 METs

次の文により問題25・26に答えよ。

25歳の男性。外傷性頸髄損傷。現在は図のような動作で食事を行っている。

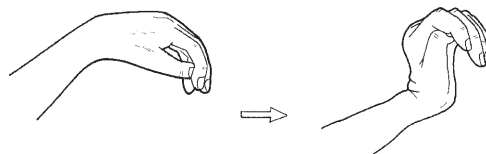
**25** 第40回 理学療法 31 **実**

この患者に対して急性期に行った呼吸理学療法で誤っているのはどれか。

1. 胸郭モビライゼーション
2. 肋間筋強化
3. 息こらえ練習
4. 介助咳嗽練習
5. 体位排痰法

**26** 第40回 理学療法 32 **実**

図は「手を握ってください」との指示でなされた手の動きである。この動きはどれか。



1. 共同運動
2. 分離運動
3. 連合運動
4. 腱固定作用
5. 把握反射

**27** 第40回 理学療法 34 **実**

50歳の女性。外傷性頸髄損傷。筋力は左右とも三角筋5、上腕二頭筋5、上腕三頭筋4、長橈側手根伸筋4、橈側手根屈筋1、手指伸筋4、手指屈筋0、体幹筋0、下肢筋0であった。この患者の機能残存レベルはどれか。

1. 第5頸髄節
2. 第6頸髄節
3. 第7頸髄節
4. 第8頸髄節
5. 第1胸髄節

**28** 第40回 理学療法 41

脊髄損傷の機能残存レベルによって生じうる拘縮で誤っている組合せはどれか。

1. 第4頸髄節 —— 肩甲骨挙上
2. 第5頸髄節 —— 肩関節外転
3. 第6頸髄節 —— 肘関節屈曲
4. 第6頸髄節 —— 手関節背屈
5. 第7頸髄節 —— MP関節屈曲

**29** 第40回 理学療法 42

高齢者の脊椎圧迫骨折の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 急性期は下肢の等尺性訓練を行う。
2. 早期離床を促す。
3. 股関節の伸筋を主に強化する。
4. 体幹筋は腹筋を主に強化する。
5. 体幹装具で座位訓練を行う。

**30** 第40回 理学療法 43

関節リウマチの足部の変形で起こりにくいのはどれか。

1. 外反母指
2. 槌指
3. 前足部内反
4. 扁平足
5. 踵骨外反

**31** 第40回 理学療法 45

片麻痺の患側立脚相での膝関節過伸展に注意すべき項目で適切でないのはどれか。

1. 大腿四頭筋の筋力低下
2. 足関節底屈筋の筋力低下
3. 尖足拘縮
4. 固有感覚障害
5. 骨盤の後退

**32** 第40回 理学療法 46

正常発達の生後7か月児にみられる反射・反応で正しいのはどれか。

1. 対称性緊張性頸反射
2. モロー反射
3. 手掌把握反射
4. 後方パラシュート反応
5. ホッピング反応

**33** 第40回 理学療法 47

デンバー式発達スクリーニングテストで最も遅く獲得されるのはどれか。

1. 2つのブロックを積む。
2. 上手投げでボールを投げる。
3. 階段を昇る。
4. 三輪車をこぐ。
5. 片足とびをする。

**34** 第40回 理学療法 55

頸髄損傷急性期合併症で下肢の関節可動域訓練が禁忌となるのはどれか。

1. 無気肺
2. 頰脈
3. 起立性低血圧
4. 尿路感染症
5. 深部静脈血栓症

**35** 第40回 理学療法 56

摂食・嚥下障害への対応で正しいのはどれか。

1. 頭頸部伸展姿勢は咽頭嚥下を改善する。
2. 頸部回旋では食塊が回旋側の咽頭を通過する。
3. 口腔期障害に対しては高粘度の食物を用いる。
4. ゼリーは咽頭残留が少ない。
5. 飲水にはぬるま湯を用いる。

**36** 第40回 理学療法 59

脊髄損傷のフランケル分類で誤っているのはどれか。

1. A：運動・知覚の完全麻痺
2. B：運動の完全麻痺、知覚残存
3. C：運動機能は残存しているが実用性なし
4. D：運動機能は正常、知覚障害あり
5. E：運動・知覚機能は正常



## 37 第40回 理学療法 60

ダウン症の身体機能の特徴で誤っているのはどれか。

1. 運動発達が遅れる。
2. 環軸関節亜脱臼がみられる。
3. 先天性心疾患の合併が多い。
4. 四肢の関節拘縮を生じやすい。
5. 外反扁平足が歩行時の問題となる。

## 38 第40回 理学療法 61

糖尿病の運動療法で正しいのはどれか。

- ア. 肥満例ではやや多めの総摂取エネルギーとする。
- イ. 運動強度は最大酸素摂取量の70%程度が適切である。
- ウ. 血糖値が高いほど効果的である。
- エ. 運動強度は漸増運動負荷試験で決定する。
- オ. 運動によってインスリン抵抗性が改善する。
1. ア,イ
  2. ア,オ
  3. イ,ウ
  4. ウ,エ
  5. エ,オ

## 39 第40回 理学療法 62

脳卒中回復期において短縮をきたす筋群として適切でないのはどれか。

1. 肩関節の外旋筋群
2. 肘関節の屈筋群
3. 手指関節の屈筋群
4. 股関節の外旋筋群
5. 足関節の底屈筋群

## 40 第40回 理学療法 65

頸椎症性の脊髄症や神経根症のADL指導で適切でないのはどれか。

1. 枕は低いものを使う。
2. テレビは目の高さより低い所に置く。
3. かぶりのシャツは避ける。
4. 肘掛けのある椅子を使う。
5. 自転車のハンドルは高めにする。

## 41 第40回 理学療法 66

人工股関節術後のADLの指導で誤っているのはどれか。

1. 靴ひもは椅子座位で外転、外旋して結ぶ。
2. 床のものは患側を後ろにずらして拾う。
3. 低い椅子に深く腰をかける。
4. 側臥位では外転位を保持する。
5. 寝る時はベッドを使用する。

## 42 第40回 理学療法 67

アトローゼ型脳性麻痺の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 姿勢筋緊張の調節
2. 原始反射抑制肢位の保持
3. 重錘バンドによる不随意運動の抑制
4. 関節中間位での運動制御
5. 四つ這いでの肩周囲筋の同時収縮促進

## 43 第40回 理学療法 68

小児疾患と理学療法との組合せで適切でないのはどれか。

1. ベルテス病 —— 水中歩行訓練
2. 血友病 —— 関節可動域訓練
3. 筋性斜頸 —— 徒手矯正
4. 先天性内反足 —— 装具療法
5. 二分脊椎 —— 交互式歩行装具

## 44 第40回 理学療法 69

脳性麻痺の病型と運動療法との組合せで誤っているのはどれか。

1. 緊張性アトローゼ —— 左右対称的なブリッジ運動
2. 痙直型片麻痺 —— 連合反応を促進
3. 痙直型四肢麻痺 —— 共同運動を抑制した分離運動
4. 失調型 —— 膝関節軽度屈曲位での立位保持運動
5. 痙直型両麻痺 —— 両下肢の交互運動

## 45 第40回 理学療法 70

脊髄損傷の機能残存レベルと筋力増強訓練との組合せで適切でないのはどれか。

1. 第1腰椎節 —— 骨盤挙上
2. 第2腰椎節 —— 股関節屈曲
3. 第3腰椎節 —— 股関節外転
4. 第4腰椎節 —— 膝関節伸展
5. 第5腰椎節 —— 膝関節屈曲

## 46 第40回 理学療法 71

脳卒中患者の歩行立脚相に必要な股関節周囲筋活動を高めるためのPNFで適切でないのはどれか。

1. 膝を伸展したまま、  
伸展 — 外転 — 内旋パターン
2. 膝を伸展したまま、  
伸展 — 内転 — 外旋パターン
3. 膝を伸展したまま、  
伸展 — 外転 — 外旋パターン
4. 膝を伸展しながら、  
伸展 — 外転 — 内旋パターン
5. 膝を屈曲しながら、  
伸展 — 外転 — 内旋パターン

**47** 第40回 理学療法 72

脳卒中片麻痺歩行の特徴でないのはどれか。

1. 体幹側屈
2. 腰椎前弯増強
3. 下肢分回し
4. 反張膝
5. 内反尖足

**48** 第40回 理学療法 73

脳卒中片麻痺患者の肩関節亜脱臼に対する対策で適切でないのはどれか。

1. 車椅子へのアームトレイ設置
2. 麻痺筋への機能的電気刺激 (FES)
3. EMG バイオフィードバック
4. アームスリングの装着
5. 上肢の体幹固定

**49** 第40回 理学療法 75

肩手症候群の急性期症状でないのはどれか。

1. 肩の疼痛性運動制限
2. MP 関節の屈曲制限
3. 手の熱感
4. 手指の骨萎縮
5. 手背の腫脹

**50** 第40回 理学療法 76

脊髄小脳変性症の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 四肢近位部への弾性緊縛帯
2. 四肢遠位部への重錘負荷
3. 膝固定装具装着での歩行訓練
4. リズミック・スタビリゼーション
5. バルーンを用いての座位訓練

**51** 第40回 理学療法 77

前頭葉損傷を受けた高次脳機能障害患者に特徴的でないのはどれか。

1. 計画性の喪失
2. 処理スピードの低下
3. 自発性の減弱
4. 左右障害
5. 易刺激性

**52** 第40回 理学療法 78

肩腱板断裂に対する棘上筋縫縮術直後の肩関節の他動的可動域運動で最も適切でないのはどれか。

1. 外 旋
2. 外 転
3. 内 転
4. 屈 曲
5. 伸 展

**53** 第40回 理学療法 79

肩関節周囲炎の可動域運動で適切でないのはどれか。

1. 滑車を使った運動
2. 棒を使った運動
3. キャッチボールを利用した運動
4. 壁を利用した運動
5. 健側を利用した運動

**54** 第40回 理学療法 80

慢性気管支炎患者の呼吸機能で誤っているのはどれか。

1. 気道抵抗の上昇
2. ピークフローの低下
3. 1秒率の低下
4. 機能的残気量の減少
5. クロージングボリュームの増加

**55** 第40回 理学療法 81

関節リウマチの理学療法で誤っているのはどれか。

1. 炎症症状の強い関節に寒冷療法を行う。
2. 朝のこわばりの強い時間帯は避ける。
3. 筋力増強運動は等尺性を原則とする。
4. 起き上がり動作は下肢と頭頸部の反動を利用する。
5. 移乗動作は座面を高く調整する。

**56** 第40回 理学療法 82

骨関節疾患と筋力増強運動との組合せで適切でないのはどれか。

1. 肩関節周囲炎 —— 肩関節外転筋
2. 腰痛症 —— 股関節屈筋群
3. 脊椎骨粗鬆症 —— 背筋群
4. 変形性股関節症 —— 股関節外転筋
5. 変形性膝関節症 —— 大腿四頭筋

**57** 第40回 理学療法 83

変形性膝関節症の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 膝関節痛に対する TENS
2. 膝内側痛に対する内側ウエッジ
3. 免荷のための杖
4. 減量のための自転車エルゴメーター
5. 関節支持のための膝装具

**58** 第40回 理学療法 84

急性心筋梗塞の負荷試験において活動のステップアップを中止する場合はどれか。

1. 疲労感の出現
2. 上室性期外収縮：2回/分
3. 心電図：0.1 mV の ST 低下
4. 心拍数：30/分増加
5. 収縮期血圧：10 mmHg の上昇

**59** 第40回 理学療法 85

虚血性心疾患の運動療法の効果として適切でないのはどれか。

1. 安静時心拍数の減少
2. 同一運動負荷での換気量の低下
3. 酸素利用能の向上
4. 最大酸素摂取量の増加
5. 嫌気性代謝閾値の低下

**60** 第40回 理学療法 86

慢性閉塞性肺疾患で運動療法を中止しなければならないのはどれか。

1. 動脈血酸素飽和度 —— 85 %
2. 酸素摂取量 —— 最大酸素摂取量の 70 %
3. 心拍数 —— 最大心拍数 (220-年齢) の 60 %
4. 収縮期血圧 —— 170 mmHg
5. ボルグ指数 —— 11

**61** 第40回 理学療法 87

多発性硬化症の障害に対する対策で適切でないのはどれか。

1. 痙性対麻痺 —— 短下肢装具
2. 視力障害 —— 環境整備
3. 協調運動障害 —— PNF
4. 歩行障害 —— メトロノーム
5. 異常感覚 —— TENS

**62** 第40回 理学療法 88

パーキンソン病の理学療法について適切でないのはどれか。

1. 肘這い位での頸部・体幹伸展訓練
2. 体幹の回旋訓練
3. ロフトランド杖を用いた歩行訓練
4. 目印をまたぐ歩行訓練
5. かけ声を利用した歩行訓練

**63** 第40回 理学療法 89

重症筋無力症で誤っているのはどれか。

1. 神経筋接合部に異常がみられる。
2. 内眼筋が障害される。
3. 午前より午後の方が症状が重い。
4. 診断にテンシロンテストが使われる。
5. 胸腺の異常を伴う。

**64** 第40回 理学療法 90

筋萎縮性側索硬化症の理学療法で誤っているのはどれか。

1. フレンケル体操
2. 起居動作の練習
3. 杖や自助具の使用
4. 変形・拘縮の予防
5. 胸郭可動域訓練

**65** 第40回 理学療法 93

呼吸訓練について誤っているのはどれか。

1. 呼吸パターンの是正を目的とする。
2. 頭低位によって吸気が容易になる。
3. 訓練前に介助呼吸を行う。
4. 呼気に際して口すぼめ呼吸を行う。
5. 最大換気呼吸は呼吸筋持久力を高める。

# ■第40回 国家試験チェックシート ( 年 月 日) ( /119点)

実地問題 27問×3点＋一般問題 38問×1点

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	1	2	3	4	5	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	1	2	3	4	5	答
10	1	2	3	4	5	答
11	1	2	3	4	5	答
12	1	2	3	4	5	答
13	1	2	3	4	5	答
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
23	1	2	3	4	5	答
24	1	2	3	4	5	答
25	1	2	3	4	5	答
26	1	2	3	4	5	答
27	1	2	3	4	5	答
28	1	2	3	4	5	答
29	1	2	3	4	5	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	1	2	3	4	5	答
33	1	2	3	4	5	答
34	1	2	3	4	5	答
35	1	2	3	4	5	答
36	1	2	3	4	5	答
37	1	2	3	4	5	答
38	ア	イ	ウ	エ	オ	答
39	1	2	3	4	5	答
40	1	2	3	4	5	答
41	1	2	3	4	5	答
42	1	2	3	4	5	答
43	1	2	3	4	5	答
44	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
45	1	2	3	4	5	答
46	1	2	3	4	5	答
47	1	2	3	4	5	答
48	1	2	3	4	5	答
49	1	2	3	4	5	答
50	1	2	3	4	5	答
51	1	2	3	4	5	答
52	1	2	3	4	5	答
53	1	2	3	4	5	答
54	1	2	3	4	5	答
55	1	2	3	4	5	答
56	1	2	3	4	5	答
57	1	2	3	4	5	答
58	1	2	3	4	5	答
59	1	2	3	4	5	答
60	1	2	3	4	5	答
61	1	2	3	4	5	答
62	1	2	3	4	5	答
63	1	2	3	4	5	答
64	1	2	3	4	5	答
65	1	2	3	4	5	答

このページはコピーしてご使用ください。

## ■第40回 国家試験解答シート

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
2	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
3	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
4	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
5	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
6	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
7	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
8	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
9	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
10	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
11	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
12	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	×	2,4
13	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
14	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
15	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
16	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
17	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
18	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
19	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
20	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
21	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
22	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1

番号	解 答					
23	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
24	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
25	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
26	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
27	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
28	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
29	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
30	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
31	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
32	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
33	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
34	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
35	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
36	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
37	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
38	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	×	×	○	5
39	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
40	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
41	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
42	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
43	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	○	1,3
44	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2

番号	解 答					
45	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
46	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
47	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
48	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
49	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
50	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
51	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
52	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
53	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
54	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
55	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
56	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
57	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
58	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
59	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
60	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
61	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
62	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
63	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
64	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
65	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2

# 第41回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 疾患別編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「疾患別編」には64問を掲載。残り36問は姉妹編「基礎編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

## 1 第41回 理学療法 8実

手指の変形や拘縮で誤っているのはどれか。



1. フォルクマン拘縮



2. 内在筋プラス肢位



3. デュプイトラン拘縮



4. ボタン穴変形



5. スワンネック

## 2 第41回 理学療法 10実

図は筋ジストロフィー症のかぶりシャツ着衣動作である。この動作を可能にしている運動で適切でないのはどれか。



1. 頸部伸展
2. 体幹側屈
3. 肩関節屈曲
4. 肘関節屈曲
5. 手指屈曲

## 3 第41回 理学療法 11実

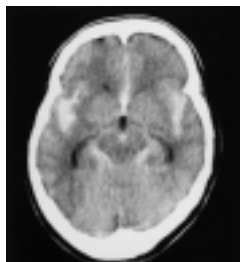
頸髄損傷患者に紙を押さえるように指示したところの写真を下に示す。この代償動作の原因となった麻痺筋はどれか。



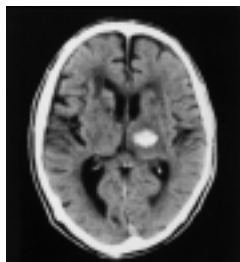
1. 三角筋前部
2. 広背筋
3. 大胸筋
4. 上腕三頭筋
5. 橈側手根伸筋

## 4 第41回 理学療法12 実

脳出血時の頭部CTを下に示す。誤っているのはどれか。



1. くも膜下出血



2. 尾状核出血



3. 小脳出血



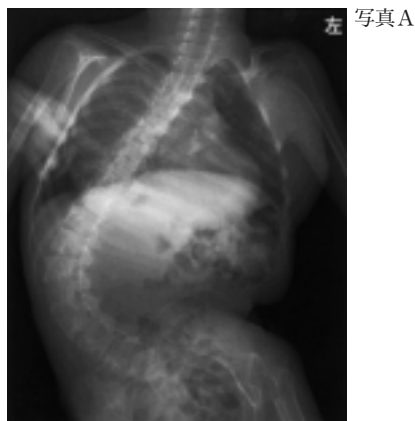
4. 脳幹出血



5. 被殻出血

## 5 第41回 理学療法13 実

14歳の女子、痙直型四肢麻痺によって座位保持ができず座位保持装置を使用している。最近側弯が増強したため外来を受診した。脊椎エックス線単純正面像(写真A)と骨盤エックス線単純正面像(写真B)とを下に示す。座位姿勢を改善させる方法で適切でないのはどれか。



写真A

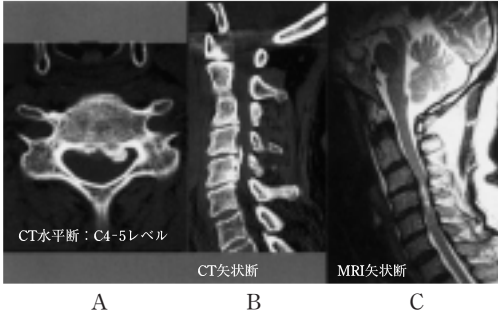


写真B

1. 軟性コルセットを使用する。
2. 右側臥位での体幹ストレッチを強化する。
3. ヘッドレストを付けて頭部を保持する。
4. 座面に傾斜をつけ左坐骨を挙上させる。
5. 座位保持装置に右体幹パッドを加える。

## 6 第41回 理学療法14 実

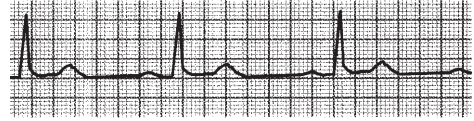
62歳の女性。転倒後、四肢麻痺が出現した。上肢の筋力は2、手指内在筋は0~1、下肢は4であった。受傷時の頸部CTと頸部MRIとを下に示す。画像から得られる所見で正しいのはどれか。



- ア. CTで第3~5頸椎間に後縦靭帯骨化がみられる。  
 イ. CTで第4・5頸椎間に骨折がみられる。  
 ウ. CTで第5・6頸椎間に脱臼がみられる。  
 エ. MRIで脊髄の圧迫はみられない。  
 オ. MRIで第5頸椎後方の脊髄に高輝度の変化がある。
1. ア,イ    2. ア,オ    3. イ,ウ  
 4. ウ,エ    5. エ,オ

## 7 第41回 理学療法15 実

心電図と病態との組合せを下に示す。誤っているのはどれか。



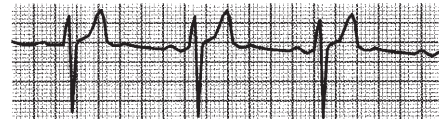
1. 洞性徐脈



2. 上室性期外収縮



3. 心室性期外収縮



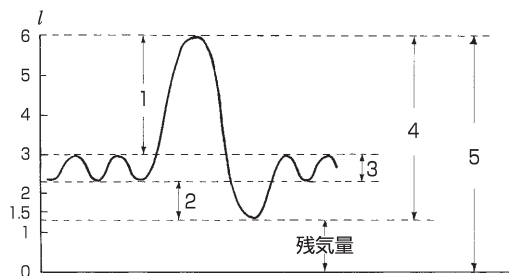
4. 1度房室ブロック



5. 心室細動

## 8 第41回 理学療法16 実

図はスパイロメータで計測した呼吸量である。誤っているのはどれか。

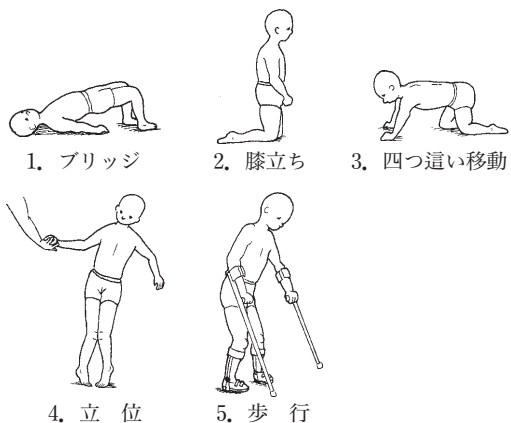


1. 予備吸気量  
 2. 機能的残気量  
 3. 1回換気量  
 4. 肺活量  
 5. 総肺気量



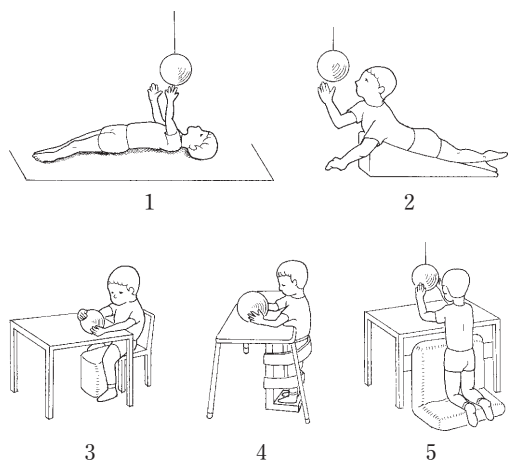
9 第41回 理学療法 20 実

4歳の男児、痙直型両麻痺。平行棒内両手支持での立位保持は可能だが、はさみ状歩容である。運動療法で適切でないのはどれか。



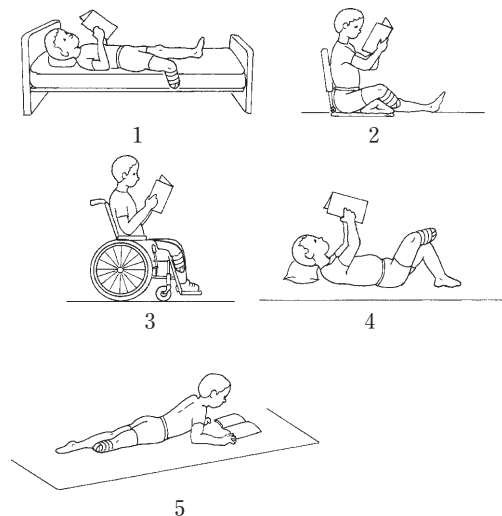
10 第41回 理学療法 21 実

4歳の男児、痙直型四肢麻痺。緊張性頸反射が陽性である。ボールを使った遊びの指導で適切でないのはどれか。2つ選べ。



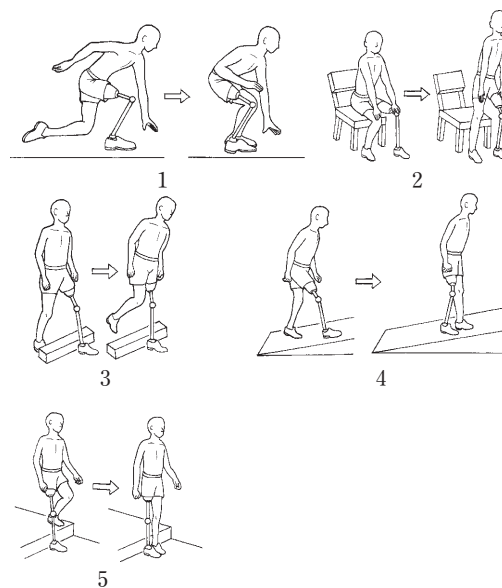
11 第41回 理学療法 22 実

5歳の男児、右下腿切断。これから義足装着訓練を始める。適切な姿勢はどれか。



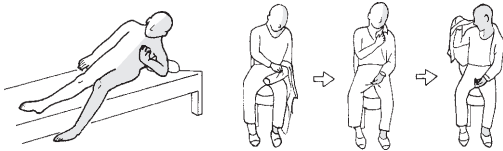
12 第41回 理学療法 23 実

ADL指導上正しいのはどれか。2つ選べ。

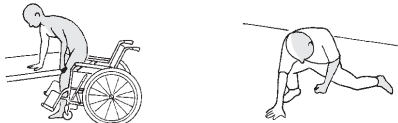


### 13 第41回 理学療法 24 実

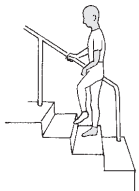
左片麻痺患者のADL指導で正しいのはどれか。



1. ベッドから起き上がる 2. 上衣を着る



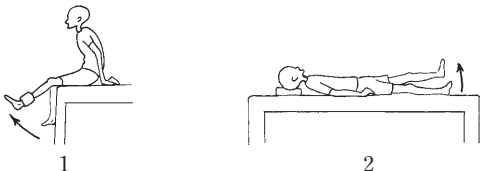
3. ベッドから車椅子へ移乗する 4. 床から立ち上がる



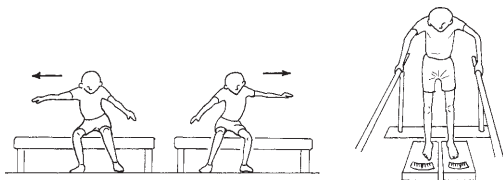
5. 階段を上がる

### 14 第41回 理学療法 25 実

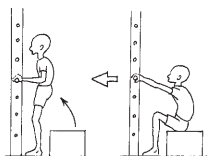
80歳の女性。転倒によって左大腿骨頸部内側骨折を受傷。人工骨頭置換術(セメントレス)施行2週後の理学療法で適切でないのはどれか。



- 1 2



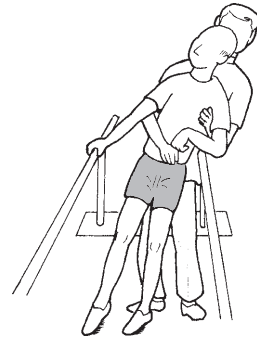
- 3 4



- 5

### 15 第41回 理学療法 26 実

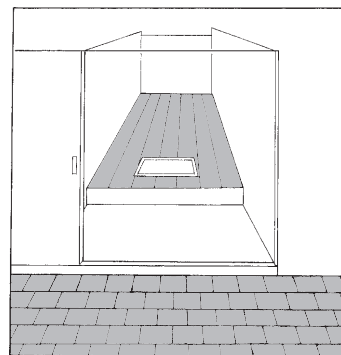
75歳の男性。右視床出血による左片麻痺。発症後3週でブルンストローム法ステージ上肢II・下肢III。平行棒内立位で図のような症状がみられた。運動療法で適切でないのはどれか。



1. 立位で治療者が左側から繰り返し押し返す。
2. 座位でのバランス訓練を行う。
3. 鏡を見せて立位保持訓練を行う。
4. 健側下肢への体重負荷訓練を行う。
5. 高い座面の椅子から立ち上がり訓練を行う。

### 16 第41回 理学療法 27 実

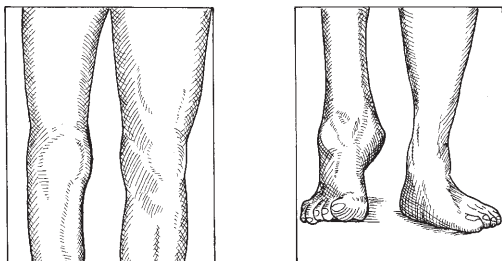
75歳の男性。脳卒中による左片麻痺。ブルンストローム法ステージは上下肢ともIII。屋内はプラスチック短下肢装具装着で歩行。屋外は車椅子で移動することで退院計画を立てることになった。住宅改造の指導で適切でないのはどれか。



1. 廊下に横手すりを設置する。
2. あがりかまちにL字型手すりを設置する。
3. 玄関口とあがりかまちの間に座れる椅子を置く。
4. 玄関の出入り口の段差にスロープを設置する。
5. 廊下に毛足の長いじゅうたんを敷き詰める。

## 17 第41回 理学療法 28 実

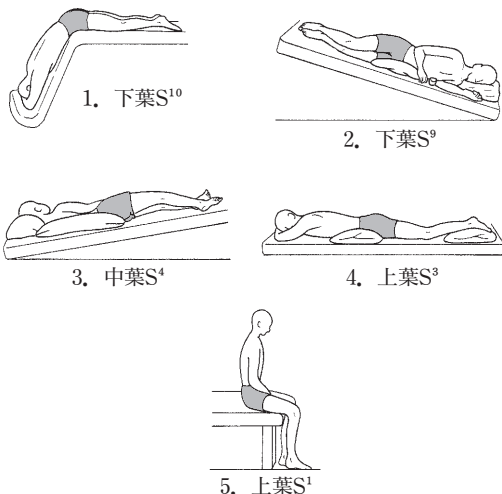
60歳の男性。身長170cm、体重90kg。3歳時にポリオに罹患し右下肢単麻痺となった。右長下肢装具を装着し独歩可能であったが、3か月前から歩行が困難となり、左下肢の筋力低下も自覚したためリハビリテーション科を受診した。下肢の状態は図のようであった。理学療法で誤っているのはどれか。



1. 体重の減量を勧める。
2. 杖の使用を検討する。
3. 骨盤帯付き長下肢装具に変更する。
4. 左下肢筋の過用を防ぐ生活指導を勧める。
5. 足底板を用いて脚長差の再調整を行う。

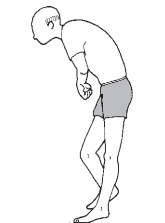
## 18 第41回 理学療法 29 実

右肺区域と体位ドレナージとの組合せで誤っているのはどれか。



## 19 第41回 理学療法 31 実

63歳の男性。脳梗塞による左片麻痺。発症後2か月。歩行時の立脚相に図のような現象を認めた。患側に対する理学療法で適切でないのはどれか。



1. 下腿三頭筋のタッピング
2. 前脛骨筋の治療的電気刺激
3. 短下肢装具を用いた歩行
4. 膝屈曲位での体重支持
5. 下腿後面のアイシング

次の文により問題 20・21 に答えよ。

20歳の男性。大学でラグビーの練習中に頸髄損傷（第6頸髄節まで機能残存）となった。

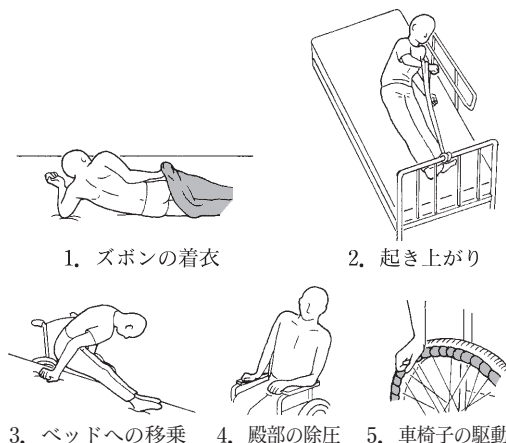
## 20 第41回 理学療法 32 実

受傷後1か月の呼吸理学療法で適切でないのはどれか。

1. 排痰の促進
2. 胸部可動性の確保
3. 横隔膜の筋力強化
4. 肋間筋の筋力強化
5. インセンティブ・スパイロメトリーを用いた呼吸訓練

## 21 第41回 理学療法 33 実

受傷後3か月の理学療法指導で誤っているのはどれか。



**22** 第41回 理学療法 34 **実**

58歳の男性。パーキンソン病でヤールの重症度分類はステージⅢ。運動に対する意欲は強い。運動療法で適切でないのはどれか。

1. 棒体操
2. メトロノームで足踏み練習
3. 歩行率を高めた歩行練習
4. マット上で寝返り練習
5. 目印に沿った歩行練習

**23** 第41回 理学療法 35 **実**

8歳の男児。デュシェンヌ型筋ジストロフィー。動揺性歩行を呈し、手すり使用で階段昇降可能。床からの立ち上がりでは登はん性起立がみられる。この時期の理学療法で正しいのはどれか。

- ア. 車椅子駆動練習  
 イ. 大腿四頭筋の筋力維持訓練  
 ウ. 傾斜台での下腿三頭筋の持続伸張  
 エ. シューホーンプレース装着での歩行  
 オ. ナイト型装具装着での立位バランス訓練
1. ア,イ
  2. ア,オ
  3. イ,ウ
  4. ウ,エ
  5. エ,オ

**24** 第41回 理学療法 36 **実**

65歳の男性。胸骨正中切開による縦隔腫瘍摘出術後3日。左上下葉区の痰の貯留が多い。この時期の理学療法で適切でないのはどれか。2つ選べ。

1. ゆっくりとした深い腹式呼吸
2. 右側臥位での体位排痰
3. 胸郭可動域運動
4. 四肢の自動介助運動
5. 体幹の回旋運動

**25** 第41回 理学療法 37 **実**

70歳の男性。身長170cm、体重60kg。陳旧性心筋梗塞による慢性心不全、NYHA (New York Heart Association, 1964) のclass II。医師の指示によって在宅での心臓リハビリテーションを行っている。自宅での生活指導で正しいのはどれか。

1. できるだけ水分摂取を行う。
2. 体重増加は栄養改善の良い指標である。
3. ボルグ指数で15程度の運動を勧める。
4. 安静時に息切れがある日は運動を休む。
5. 安静時間を長くしてエネルギー消費量を減らす。

**26** 第41回 理学療法 38 **実**

45歳の女性。体重55kg。急性心筋梗塞の回復期に入り、運動負荷試験を実施したところ、酸素摂取量770ml/分までは安全性が確認された。この患者に許可できるレクリエーションの最大レベルはどれか。

1. ラジオ体操
2. バドミントン (シングルス)
3. テニス (シングルス)
4. ジョギング
5. 登山

**27** 第41回 理学療法 39 **実**

45歳の男性。髄膜脳炎。手足の麻痺はなく、1年後には身の回りの動作が自立した。新しいことが覚えられない記憶力障害が残った。病前の職業は会社員 (営業)。WAIS-RはVIQ110、PIQ90。訓練アプローチで適切なのはどれか。

- ア. 絵カードの呼称  
 イ. メモの利用  
 ウ. 一日のスケジュール表作成  
 エ. 新聞の音読  
 オ. 電話対応の練習
1. ア,イ
  2. ア,オ
  3. イ,ウ
  4. ウ,エ
  5. エ,オ

**28** 第41回 理学療法 40 **実**

56歳の男性。右利き。脳卒中による右片麻痺。発語は流暢だが内容は意味不明だった。また、「今日の天気は晴れです」の繰り返しを指示すると反復することができなかった。考えられる失語症はどれか。

1. 伝導失語
2. ブローカ失語
3. ウェルニッケ失語
4. 超皮質性運動失語
5. 超皮質性感覚失語

**29** 第41回 理学療法 48

ブルンストローム法ステージⅥの要件はどれか。

1. 座位で足を床上で滑らせながら膝関節屈曲90°以上が可能
2. 座位で床に踵をつけたまま足関節のみ背屈が可能
3. 座位で下腿の内外旋が可能
4. 立位で股関節を伸展したまま膝関節屈曲が可能
5. 立位で膝関節を伸展したまま足関節背屈が可能

**30** 第41回 理学療法 49

運動失調の評価で誤っているのはどれか。

1. バレー徴候
2. ロンベルグ徴候
3. 踵膝試験
4. 膝打ち試験
5. 鼻指鼻試験

**31** 第41回 理学療法 58

パーキンソン病に比較して、血管性パーキンソンニズムで認めにくいのはどれか。

1. 突進現象
2. 痴呆症状
3. 感情失禁
4. 高血圧
5. 虚血性心疾患

**32** 第41回 理学療法 59

脳卒中片麻痺の肩手症候群で誤っているのはどれか。

1. 手指の腫脹から始まる。
2. ブルンストローム法ステージ上肢Ⅳ以上で起こりやすい。
3. 肩甲骨は内転・下方回旋をとりやすい。
4. 肩の他動的外転・外旋が制限されやすい。
5. 鎮痛には TENS が用いられる。

**33** 第41回 理学療法 60

脳卒中片麻痺の病的共同運動で正しいのはどれか。

1. 肩甲骨挙上に伴う肘関節伸展
2. 肘関節屈曲に伴う手関節背屈
3. 股関節外転に伴う膝関節伸展
4. 股関節内旋に伴う膝関節屈曲
5. 膝関節屈曲に伴う足関節背屈

**34** 第41回 理学療法 61

脳卒中の平行棒内移動練習で誤っている組合せはどれか。

1. 椅子からの立ち上がり — 平行棒を下方に押し立て立ち上がる。
2. 患側肢での体重支持 — 患側膝関節軽度屈曲位で体重を負荷する。
3. 左右肢の体重移動 — 最初は横方向、次に前後方向で行う。
4. 健側肢の振り出し — 患側股関節の伸展を意識させる。
5. 患側肢の振り出し — 健側で伸び上がり振り出す。

**35** 第41回 理学療法 62

慢性期片麻痺患者の歩行の特徴で誤っているのはどれか。

1. 麻痺側の立脚相は非麻痺側より短い。
2. 麻痺側の遊脚相の膝屈曲角度は非麻痺側より小さい。
3. 麻痺側の遊脚相で麻痺側の股関節は外転する。
4. 非麻痺側の立脚相で体幹は麻痺側に側屈する。
5. 歩幅は正常歩行より広い。

**36** 第41回 理学療法 63

片麻痺患者の ADL 指導で誤っているのはどれか。

1. 急な登り坂は健側を山側にして横歩きする。
2. 敷居をまたぐときは健側から行う。
3. 車椅子の座面は低めに設定する。
4. 浴槽へは患側から入る。
5. 脱衣は健側から行う。

**37** 第41回 理学療法 64

脊髄損傷の機能残存レベルと可能な運動との組合せで正しいのはどれか。

- ア. 第1腰椎節 — 股関節外転  
 イ. 第2腰椎節 — 股関節伸展  
 ウ. 第3腰椎節 — 膝関節伸展  
 エ. 第4腰椎節 — 足関節背屈  
 オ. 第5腰椎節 — 足関節底屈
1. ア, イ    2. ア, オ    3. イ, ウ  
 4. ウ, エ    5. エ, オ

**38** 第41回 理学療法 65

脊髄損傷で正しいのはどれか。

1. 脊髄円錐部損傷では排尿障害の予後は良好である。
2. 馬尾損傷では痙性対麻痺を生じる。
3. 後脊髄症候群では深部感覚障害に比べ温痛覚障害が主体となる。
4. 前脊髄症候群では深部感覚障害に比べ運動機能の予後が悪い。
5. ブラウン・セカール症候群では損傷部以下の同側の温痛覚障害がある。

**39** 第41回 理学療法 66

頸髄損傷の機能残存レベルと車椅子との組合せで誤っているのはどれか。

1. 第4頸髄節 — 電動車椅子
2. 第5頸髄節 — 取り外し式アームレスト
3. 第6頸髄節 — ゴム巻きハンドリム
4. 第7頸髄節 — 延長レバーブレーキ
5. 第8頸髄節 — 標準型車椅子

**40** 第41回 理学療法 67

自律神経過反射で誤っているのはどれか。

1. 血圧低下
2. 顔面紅潮
3. 徐脈
4. 頭痛
5. 鼻閉

**41** 第41回 理学療法 68

正常動作とその獲得に必要な反射の出現・消失との組合せて正しいのはどれか。

1. 寝返り —— 非対称性緊張性頸反射の消失
2. 定頸 —— ランドウ反射の消失
3. 座位保持 —— 後方へのパラシュート反応の出現
4. つかまり立ち —— 立位での傾斜反応の出現
5. つたい歩き —— 陽性支持反応の出現

**42** 第41回 理学療法 69

対称性緊張性頸反射で正しいのはどれか。

1. 頸部の伸展で股関節と膝関節が屈曲する。
2. 統合する中枢は大脳にある。
3. 立直り反応の一つである。
4. 生後4か月で出現する。
5. 生後10か月で消失する。

**43** 第41回 理学療法 70

脳性麻痺の病型と症状との組合せて誤っているのはどれか。

1. 弛緩型 —— スカーフ徴候
2. アテトーゼ型 —— ガラント反射
3. 痙直型 —— 折りたたみナイフ現象
4. 失調型 —— 安静時振戦
5. 強剛型 —— 鉛管現象

**44** 第41回 理学療法 71

デュシェンヌ型筋ジストロフィーで短縮が起こりにくい筋はどれか。

1. 下腿三頭筋
2. 後脛骨筋
3. 大殿筋
4. ハムストリングス
5. 大腿筋膜張筋

**45** 第41回 理学療法 72

二分脊椎(脊髄膜瘤)で誤っているのはどれか。

1. 水頭症の合併は知的障害と関連する。
2. 脊髄係留症候群は乳児期に出現する。
3. 神経因性膀胱が問題となる。
4. 足部は褥瘡の好発部位である。
5. 学童期には肥満が問題となる。

**46** 第41回 理学療法 73

正常動作の発達の順序で誤っているのはどれか。

1. 腹臥位で頭を上げられる。  
→寝返りができる。
2. 寝返りができる。  
→座位保持ができる。
3. 四つ這いができる。  
→つかまり立ちができる。
4. その場ジャンプができる。  
→手すりにつかまって階段を登れる。
5. 片足立ちができる。  
→スキップができる。

**47** 第41回 理学療法 74

腱板不全断裂の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 急性期は三角巾による局所の安静
2. 肩甲胸郭関節の可動域訓練
3. 滑車を用いた肩関節可動域維持
4. 肩甲上腕リズムの再学習訓練
5. 重錘を用いた上肢挙上運動

**48** 第41回 理学療法 75

膝関節疾患と診断との組合せて誤っているのはどれか。

1. 前十字靭帯損傷 —— ラックマンテスト
2. 半月板損傷 —— マックマレーテスト
3. 内側側副靭帯損傷 —— 内反ストレステスト
4. 膝蓋・大腿関節障害 —— Q角
5. 変形性膝関節症 —— 膝蓋跳動

**49** 第41回 理学療法 76

膝関節疾患で生じる症状の説明で誤っているのはどれか。

1. キャッチング —— 運動時、膝に引っ掛かり感を感じる。
2. 膝くずれ —— 荷重時、膝がガクッと折れそうになる。
3. ロッキング —— 膝が一定の角度で屈伸不能になる。
4. 弾発現象 —— 膝の中で物が動く感じがする。
5. 轆音 —— 屈伸時、音がして動きの滑らかさが失われる。

**50** 第41回 理学療法 77

変形性関節症と運動療法との組合せで適切でないのはどれか。

1. 股関節症 —— ゴムを用いた外転筋訓練
2. 股関節症 —— 重錘バンドを用いた下肢伸展拳上訓練
3. 股関節症 —— 徒手的な腸腰筋の伸張
4. 膝関節症 —— 重錘バンドを用いた大腿四頭筋訓練
5. 膝関節症 —— 徒手的なハムストリングスの伸張

**51** 第41回 理学療法 78

関節リウマチの足部変形で生じにくいのはどれか。

1. 外反母指
2. 槌指変形
3. 扁平足
4. 凹足変形
5. 踵骨の外反変形

**52** 第41回 理学療法 79

多発性硬化症の理学療法で適切でないのはどれか。

- ア. 痙縮に対する寒冷療法  
イ. 10 RM の筋力強化訓練  
ウ. 温水プールでの歩行訓練  
エ. トレッドミルによる平地歩行訓練  
オ. 運動失調に対するPNF
1. ア,イ 2. ア,オ 3. イ,ウ
  4. ウ,エ 5. エ,オ

**53** 第41回 理学療法 80

パーキンソン病の自律神経徴候で誤っているのはどれか。

1. 発汗異常
2. 排尿障害
3. 下痢
4. 脂漏性皮膚
5. 起立性低血圧

**54** 第41回 理学療法 81

パーキンソン病患者のすくみ足に対する家族への指導で適切なものはどれか。

- ア. 向かい合って両手を引いて歩く。  
イ. 後方から骨盤を押して歩く。  
ウ. リズムに合わせて1歩を踏み出す。  
エ. 床に踏み越える目印のテープを貼る。  
オ. 両腕を大きく振って階段を昇る。
1. ア,イ 2. ア,オ 3. イ,ウ
  4. ウ,エ 5. エ,オ

**55** 第41回 理学療法 82

筋萎縮性側索硬化症の主な機能障害でみられないのはどれか。

- ア. 知能障害  
イ. 構音障害  
ウ. 嚥下障害  
エ. 呼吸障害  
オ. 感覚障害
1. ア,イ 2. ア,オ 3. イ,ウ
  4. ウ,エ 5. エ,オ

**56** 第41回 理学療法 83

ギラン・バレー症候群の回復期の運動療法で適切でないのはどれか。

1. 漸増抵抗運動
2. マット上での四つ這い移動
3. バルーンを用いた座位での体幹筋強化
4. 歩行練習
5. 体操による筋のストレッチ

**57** 第41回 理学療法 84

ギラン・バレー症候群で誤っているのはどれか。

- ア. 初期に軽い感覚障害を生じる。  
イ. 四肢の痙性麻痺を生じる。  
ウ. 軸索型は脱髄型より予後は良好である。  
エ. 肢節近位部から遠位部に向けて回復する。  
オ. 重症では呼吸筋麻痺をきたす。
1. ア,イ 2. ア,オ 3. イ,ウ
  4. ウ,エ 5. エ,オ

**58** 第41回 理学療法 92

慢性呼吸不全患者の生活指導で適切でないのはどれか。

1. 腹式呼吸を励行する。
2. 時間当たり呼吸数を増やす。
3. 1回換気量を増やす。
4. 動作を分割する。
5. 酸素吸入下で体操する。

**59** 第41回 理学療法 93

腹式呼吸法で誤っているのはどれか。

1. 口すぼめ呼吸を併用する。
2. 呼吸補助筋の活動を抑制する。
3. 胸部と腹部にそれぞれ手を置く。
4. 呼気時に腹部隆起を確認する。
5. 呼気は吸気の2倍以上の時間をかけて行う。

**60** 第41回 理学療法 95

急性期心筋梗塞症患者のリハビリテーションのステージ進行基準に含まれないのはどれか。

1. 自覚症状の有無
2. 心拍数の増加
3. 収縮期血圧の上昇
4. 重症不整脈の有無
5. 心電図の異常Q波

**61** 第41回 理学療法 96

心筋梗塞のリハビリテーションの効果で誤っているのはどれか。

1. 運動耐容能の向上
2. 生活の質の向上
3. 余命の延長
4. HDL コレステロール値の上昇
5. 安静時心拍数の上昇

**62** 第41回 理学療法 97

インスリン依存型糖尿病の運動療法で誤っているのはどれか。

- ア. 運動強度はボルグ指数で13以下に設定する。  
 イ. 自転車エルゴメーターは1日20～30分程度とする。  
 ウ. 尿ケトン体陽性時には運動量を増やす。  
 エ. 食後2時間以内の運動は避ける。  
 オ. インスリン注射部位の運動は避ける。
1. ア,イ    2. ア,オ    3. イ,ウ
  4. ウ,エ    5. エ,オ

**63** 第41回 理学療法 98

外傷性脳損傷で誤っているのはどれか。

1. バランス障害が出やすい。
2. 半側空間無視を伴いやすい。
3. 記憶障害を伴いやすい。
4. 行動異常が問題となる。
5. しているADLとできるADLが解離しやすい。

**64** 第41回 理学療法 99

外傷性脳損傷のADLの予後と関連しないのはどれか。

1. 昏睡の期間
2. 除皮質肢位の有無
3. 外傷性健忘の期間
4. 共同性注視障害の有無
5. 半盲の有無



■第41回 国家試験チェックシート ( 年 月 日) ( /120点)

実地問題 28問×3点+一般問題 36問×1点

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	ア	イ	ウ	エ	オ	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	1	2	3	4	5	答
10	1	2	3	4	5	答
11	1	2	3	4	5	答
12	1	2	3	4	5	答
13	1	2	3	4	5	答
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
23	ア	イ	ウ	エ	オ	答
24	1	2	3	4	5	答
25	1	2	3	4	5	答
26	1	2	3	4	5	答
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
28	1	2	3	4	5	答
29	1	2	3	4	5	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	1	2	3	4	5	答
33	1	2	3	4	5	答
34	1	2	3	4	5	答
35	1	2	3	4	5	答
36	1	2	3	4	5	答
37	ア	イ	ウ	エ	オ	答
38	1	2	3	4	5	答
39	1	2	3	4	5	答
40	1	2	3	4	5	答
41	1	2	3	4	5	答
42	1	2	3	4	5	答
43	1	2	3	4	5	答
44	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
45	1	2	3	4	5	答
46	1	2	3	4	5	答
47	1	2	3	4	5	答
48	1	2	3	4	5	答
49	1	2	3	4	5	答
50	1	2	3	4	5	答
51	1	2	3	4	5	答
52	ア	イ	ウ	エ	オ	答
53	1	2	3	4	5	答
54	ア	イ	ウ	エ	オ	答
55	ア	イ	ウ	エ	オ	答
56	1	2	3	4	5	答
57	ア	イ	ウ	エ	オ	答
58	1	2	3	4	5	答
59	1	2	3	4	5	答
60	1	2	3	4	5	答
61	1	2	3	4	5	答
62	ア	イ	ウ	エ	オ	答
63	1	2	3	4	5	答
64	1	2	3	4	5	答

このページはコピーしてご使用ください。

## ■第41回 国家試験解答シート

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
2	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
3	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
4	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
5	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
6	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	×	×	×	○	2
7	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
8	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
9	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
10	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	○	○	1,2
11	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
12	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	○	2,5
13	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
14	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
15	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
16	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
17	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
18	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
19	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
20	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
21	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
22	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3

番号	解 答					
23	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	×	×	3
24	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	×	3,5
25	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
26	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	×	×	3
28	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
29	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
30	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
31	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
32	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
33	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
34	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
35	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
36	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
37	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	○	○	×	4
38	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
39	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
40	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
41	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
42	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
43	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
44	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3

番号	解 答					
45	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
46	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
47	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
48	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
49	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
50	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
51	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
52	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	×	×	○	○	3
53	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
54	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	×	○	○	×	4
55	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	×	○	○	○	×	2
56	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
57	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	×	×	○	○	3
58	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
59	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
60	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
61	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
62	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	○	×	×	○	4
63	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
64	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5

# 第42回 PT・OT 国家試験問題 (理学療法 疾患別編)

実=実地問題 (3点), 無印=一般問題 (1点)

本書「疾患別編」には67問を掲載。残り33問は姉妹編「基礎編」(本体4,200円)の「付録」に掲載

## 1 第42回 理学療法8実

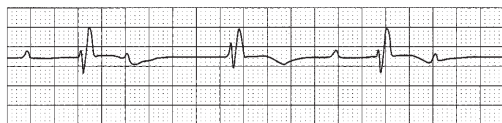
心電図と所見との組合せを下に示す。誤っているのはどれか。



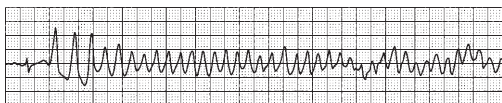
1. 正常洞調律



2. 心室性期外収縮



3. 完全房室ブロック



4. 心房細動

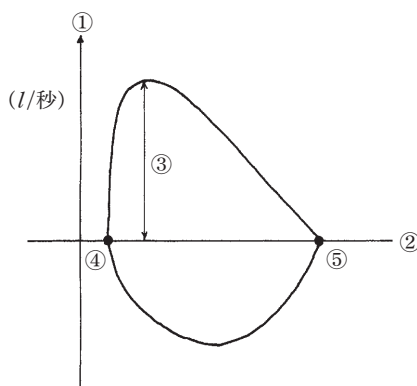


5. 心房性期外収縮

1. 正常洞調律
2. 心室性期外収縮
3. 完全房室ブロック
4. 心房細動
5. 心房性期外収縮

## 2 第42回 理学療法9実

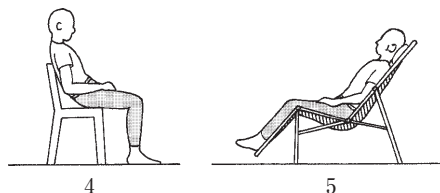
フローボリューム曲線で誤っているのはどれか。



1. ① (縦軸): 気流速度
2. ② (横軸): 肺気量
3. ③: 肺活量
4. ④: 最大吸気位
5. ⑤: 最大呼気位

## 3 第42回 理学療法10実

腰痛症患者に適切な姿勢はどれか。2つ選べ。



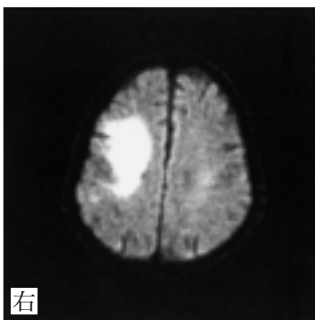
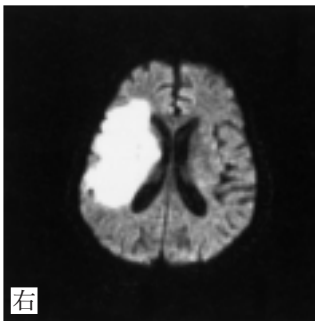
#### 4 第42回 理学療法11 実

75歳の女性。1か月前に脳梗塞右片麻痺を発症した。ブルンストローム法ステージは上肢II・手指II・下肢III。現在のADLは次のとおりである。整容は自立。食事、着替え、車椅子・ベッド間の移乗、トイレ動作、歩行は部分介助。排便、排尿とも失禁はない。階段昇降と入浴は全介助である。Barthel indexは何点か。

1. 15点
2. 30点
3. 45点
4. 60点
5. 75点

次の文により、問題5・6に答えよ。

65歳の男性。意識が消失し緊急入院となった。発症後2日目においても意識障害は重度である。MRI拡散強調画像を下に示す。



#### 5 第42回 理学療法12 実

この時点で行う管理で誤っているのはどれか。

1. 座位耐久性訓練
2. 肩関節の可動域訓練
3. 2時間毎の体位変換
4. 下腿三頭筋のストレッチ
5. 下腿に弾性ストッキング装着

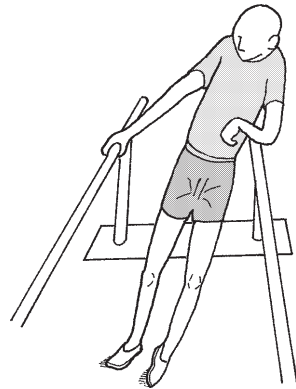
#### 6 第42回 理学療法13 実

その後、意識状態が改善した。歩行が困難であるにもかかわらず、ひとりでベッドから立ち上がるようにする。この患者に認められる可能性が高い症状はどれか。

1. 右手は自由に動かせるが、ジャンケンのチョキが模倣できない。
2. 5つの物品の中から指示した物を選択できない。
3. 「左手足は動きますか」と聞くと「はい」と答える。
4. 指示に対して右手足をほとんど動かせない。
5. 眼鏡を見て「めがね」と呼称できない。

#### 7 第42回 理学療法14 実

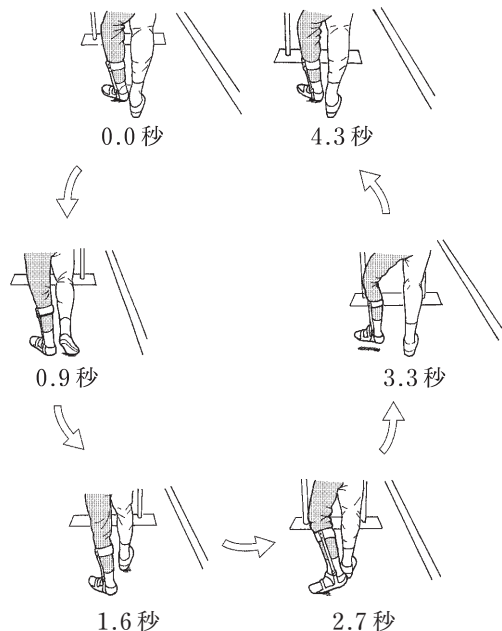
72歳の男性。脳梗塞による左片麻痺。発症後3週。平行棒内立位訓練で図のような姿勢を呈する。この症状を改善するための理学療法で適切なものはどれか。2つ選べ。



1. 歩幅を広くして支持基底面を大きくさせる。
2. 右手で平行棒を引っ張るよう指示する。
3. 理学療法士が骨盤を左側から健側方向に押す。
4. 前方に鏡を置いて不良姿勢を認識させる。
5. レイミステ現象を利用して臥位で患側の股関節内転筋を強化する。

次の文により問題 8・9 に答えよ。

65歳の男性。脳梗塞による左片麻痺。発症後3か月。1か月前から平行棒内で歩行練習を行っている。現在の歩行パターンを図に示した。



### 8 第42回 理学療法 15 実

この症例の一步行周期における二重支持期の時間で正しいのはどれか。ただし、図の数値は経過時間を示す。

1. 0.6秒
2. 1.0秒
3. 1.6秒
4. 2.0秒
5. 2.7秒

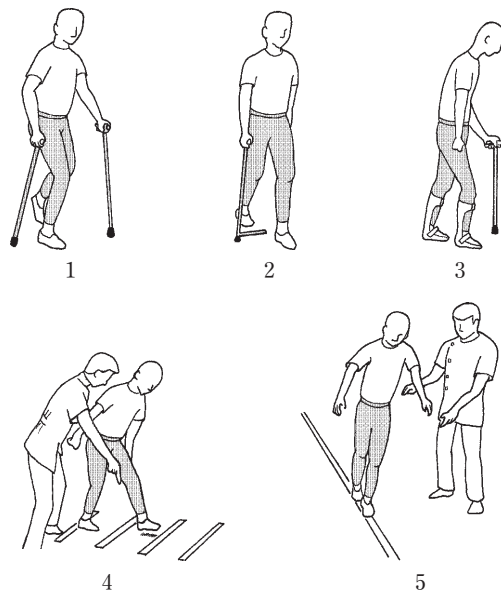
### 9 第42回 理学療法 16 実

この症例における歩行の特徴として誤っているのはどれか。

1. 患側の立脚初期に過度の股関節外旋が生じている。
2. 患側肢では足趾接地が踵接地の前に生じている。
3. 患側の遊脚期に過度の膝関節屈曲が生じている。
4. 患側の遊脚期に股関節外転分回しが生じている。
5. 患側肢に内側ホイップが生じている。

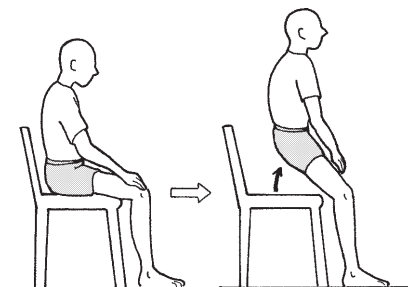
### 10 第42回 理学療法 17 実

60歳の男性。6年前にパーキンソン病と診断され、ヤールの重症度分類ステージⅢである。歩行訓練で正しいのはどれか。2つ選べ。



### 11 第42回 理学療法 18 実

70歳の男性。パーキンソン病。ヤールの重症度分類ステージⅣ。椅子からの立ち上がり動作が図のようになり、上手にできないことが多い。立ち上がり動作の訓練として適切なのはどれか。2つ選べ。



1. 足関節を底屈させて床を蹴るようにする。
2. 体幹を前屈させてお辞儀をするようにする。
3. 両上肢を前方へ出すようにする。
4. 殿部が座面を離れると同時に膝関節を伸展する。
5. 座面を膝の位置より低いものにする。

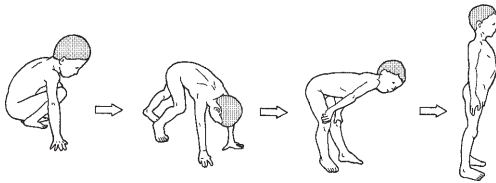
**12** 第42回 理学療法 19 **実**

35歳の女性。四肢のしびれで発症し、視力障害、不全四肢麻痺、体性感覚障害および息苦しさの増悪と寛解を繰り返した。小脳症状はない。MRIでは脳脊髄白質に多発性・散在性の脱髄斑が認められた。理学療法で適切なのはどれか。

1. 胸郭の可動性拡大運動
2. ボルグ指数で「きつい」運動
3. しびれに対するホットパック
4. 水温 38~39°C の水中歩行訓練
5. 下肢に重錘を装着しての歩行訓練

**13** 第42回 理学療法 20 **実**

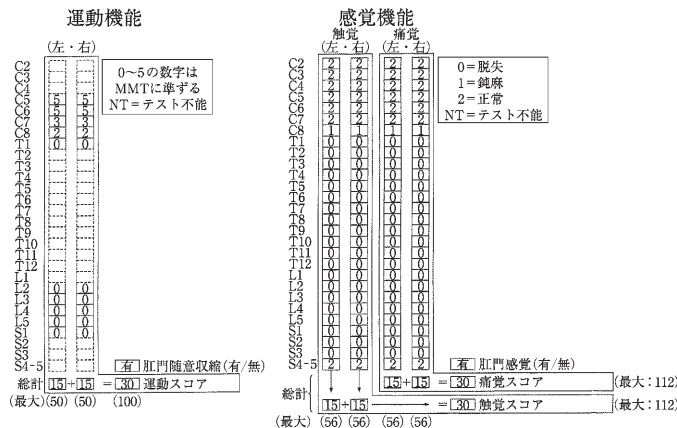
10歳の男児。図のように床から立ち上がる。筋力低下部位で正しいのはどれか。2つ選べ。



1. 大殿筋
2. 腸腰筋
3. 大腿四頭筋
4. 前脛骨筋
5. ヒラメ筋

**14** 第42回 理学療法 21 **実**

20歳の男性。交通事故によって脊髄損傷を受傷。ASIA (American Spinal Injury Association) の評価結果を図に示す。ASIA の重症度スケールで正しいのはどれか。

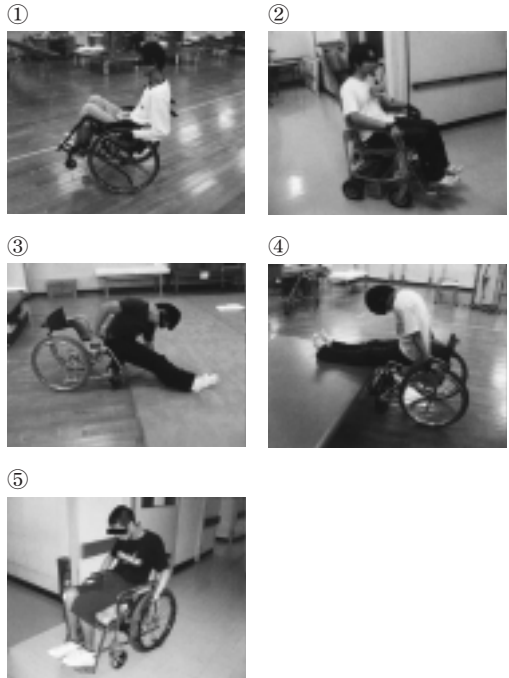


1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

**15** 第42回 理学療法 22 **実**

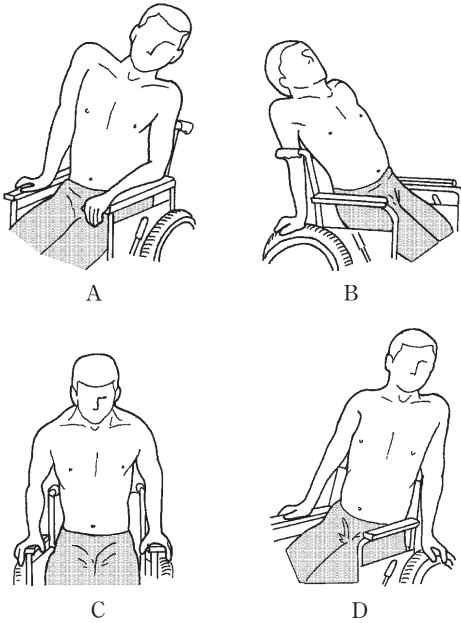
22歳の男性。6か月前にバイク事故で頸髄損傷となった。徒手筋力テスト上腕二頭筋が右5・左4、上腕三頭筋が右1、左1、長橈側手根伸筋が右2・左1であった。下肢は両側とも完全麻痺で、感覚脱失であった。バイタルサインは安定していた。車椅子訓練を下に示す。正しいのはどれか。

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤



## 16 第 42 回 理学療法 23 実

図は脊髄損傷患者が車椅子上でプッシュアップを行う動作を示している。損傷レベルの上位から下位への順序で正しいのはどれか。



1. A-B-C-D
2. B-D-A-C
3. C-A-B-D
4. D-A-C-B
5. B-A-D-C

## 17 第 42 回 理学療法 24 実

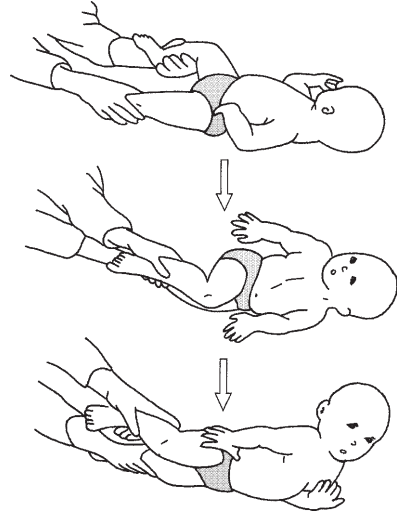
健常児。座位をとらせたとき、常に図に示す姿勢をとる。この月齢でみられるのはどれか。2つ選べ。



1. 足踏み反射
2. 足底把握反射
3. 後方への保護伸展反応
4. 腹臥位での頭部立ち直り反応
5. 背臥位での傾斜反応

## 18 第 42 回 理学療法 25 実

図は乳児の寝返りの誘発反応を示している。正しいのはどれか。



1. 対称性緊張性頸反射が残存していると誘発されない。
2. 正常発達では9か月以降にみられる反応である。
3. この反応を統合する中枢は延髄にある。
4. この反応は股関節屈曲で誘発される。
5. 立ち直り反応の誘発に利用される。

## 19 第 42 回 理学療法 26 実

3歳の男児。痙直型右片麻痺。図に示す右上下肢の肢位に影響しているのはどれか。2つ選べ。



1. 非対称性緊張性頸反射
2. 緊張性迷路反射
3. 陽性支持反応
4. 逃避反射
5. 自動歩行

**20** 第42回 理学療法 27 **実**

5歳の女兒。痙直型両麻痺。頸定は6か月、寝返りは11か月、座位は2歳で可能となった。現在、平行棒内で裸足での立位保持は可能だが歩行は自立していない。小学校入学時に使用する可能性が最も低いのはどれか。

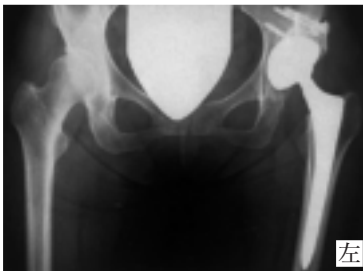
1. 歩行器
2. バギー
3. 転倒保護帽
4. 短下肢装具
5. ロフトランドクラッチ

次の文により問題 **21**・**22** に答えよ。

58歳の女性。先天性股関節脱臼で小児期にリーメンビューゲル装具で加療した。10年前から歩行時に左股関節痛があった。痛みは進行し、1年前から杖が必要となり、靴下の着脱も困難となったため手術を受けた。股関節の術前と術後のエックス線単純正面像を下に示す。



(術前)



(術後)

**21** 第42回 理学療法 28 **実**

左股関節の術前エックス線写真の所見で認められないのはどれか。

1. 骨嚢胞
2. 骨棘形成
3. 関節裂隙狭小化
4. 臼蓋形成不全
5. 内反股

**22** 第42回 理学療法 29 **実**

術後の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 術後2日目から中臀筋の筋力強化を行う。
2. 術後3日目から全荷重を開始する。
3. 術後10日目から水中運動療法を行う。
4. 入院中から靴下の着脱は外旋位で行うよう指導する。
5. 退院後も低いソファーに座ることを避ける。

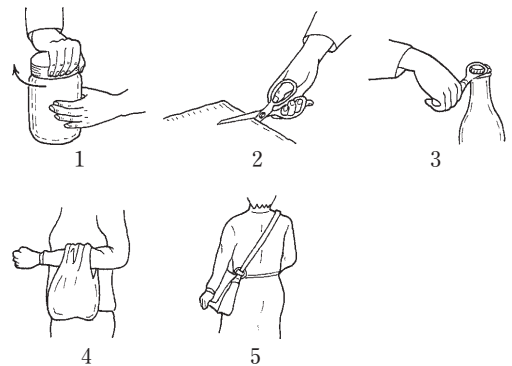
**23** 第42回 理学療法 30 **実**

60歳の女性。主婦。歩行開始時に両膝関節内側に疼痛が出現した。内反型変形性膝関節症と診断され、大腿脛骨角180°、BMI指数29.0であった。理学療法で適切でないのはどれか。

1. SLRによる大腿四頭筋強化訓練
2. 起立・歩行時の外側楔状足底板の使用
3. 外出時の軟性膝装具の使用
4. 1日1万歩のウォーキング
5. 1日30分間の自転車エルゴメーター

**24** 第42回 理学療法 31 **実**

50歳の女性。関節リウマチ。スタインブロッカーのステージIII、クラスIII。日常生活の指導で適切なものはどれか。2つ選べ。





次の文章により問題 25・26 に答えよ。

50歳の男性。慢性呼吸不全。スパイロメトリーでは、%VC:85%、FEV<sub>1.0</sub>%:65%であった。健常者と同様に平地を歩くのは難しいが、自分のペースで2.0kmの距離を歩くことができる。

### 25 第42回 理学療法 32 実

正しいのはどれか。

1. 閉塞性換気障害, Hugh-Jones 分類II度
2. 拘束性換気障害, Hugh-Jones 分類II度
3. 混合性換気障害, Hugh-Jones 分類II度
4. 閉塞性換気障害, Hugh-Jones 分類III度
5. 拘束性換気障害, Hugh-Jones 分類III度

### 26 第42回 理学療法 33 実

2年後、呼吸不全が進行し、日常生活でも息切れができるようになった。ADL指導で誤っているのはどれか。

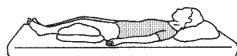
1. 動作は細かく分けて行う。
2. 和式トイレよりも洋式トイレが良い。
3. 息を吸いながら物を持ち上げる。
4. 台所仕事は椅子に座って行う。
5. 息苦しさを感したら口をすぼめて息を吐く。

### 27 第42回 理学療法 34 実

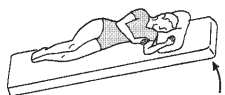
痰貯留部位と体位排痰法との組合せで正しいのはどれか。



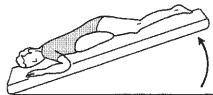
ア. S<sup>1</sup>



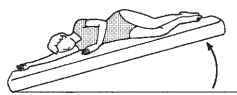
イ. S<sup>3</sup>



ウ. S<sup>6</sup>



エ. S<sup>8</sup>



オ. S<sup>10</sup>

1. ア, イ
2. ア, オ
3. イ, ウ
4. ウ, エ
5. エ, オ

### 28 第42回 理学療法 35 実

30歳の男性。右外果骨折に対して金属プレートで骨接合術を施行した。術後2か月経過。熱感はなく、全荷重となっているが、背屈制限が著しく、外果周囲に組織の肥厚と癒着がある。他動的関節可動域訓練前の物理療法で適切なのはどれか。2つ選べ。

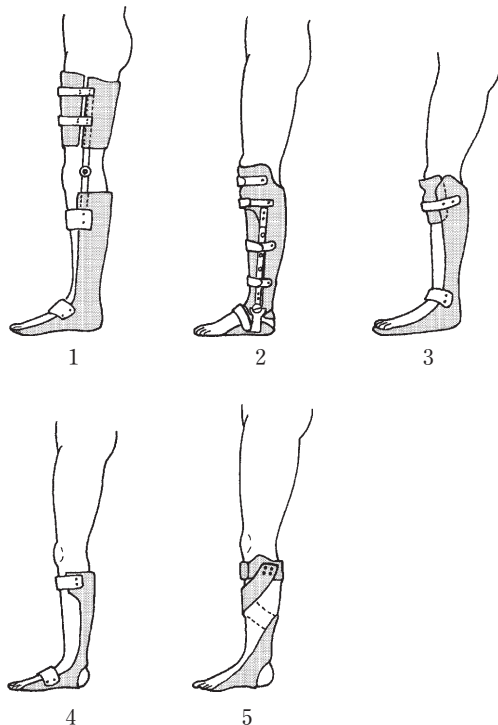
1. アイシング
2. 水温36°Cの渦流浴
3. 連続波で1MHzの超音波療法
4. 2,450MHzの超音波療法
5. 51°Cのパラフィン浴

次の文により問題 29・30 に答えよ。

20歳の男性。大学生。バイク事故を起こし、脛骨骨幹部開放骨折を受傷。3週後髓内釘による骨接合術を受けた。3か月後、創は治癒したが、骨折部に痛みがあり、遷延癒合の状態である。

### 29 第42回 理学療法 36 実

スニーカーで通学するための部分荷重ができる装具で適切なのはどれか。



1

2

3

4

5

**30** 第42回 理学療法 37 **実**

この症例で、骨癒合を促進させる物理療法として適切なのはどれか。

1. 極超短波
2. 超音波
3. レーザー
4. ホットパック
5. 渦流浴

**31** 第42回 理学療法 51

骨折治療で介達牽引と比較した直達牽引の特徴として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 強く牽引できる。
2. 簡便に実施できる。
3. 短期間の牽引に適する。
4. 皮膚に湿疹を生じやすい。
5. 感染に注意が必要である。

**32** 第42回 理学療法 56

脳卒中片麻痺急性期のポジショニングで正しい組合せはどれか。

1. 手関節———掌屈位
2. 肘関節———伸展位
3. 肩関節———内旋位
4. 股関節———外旋位
5. 足関節———底屈位

**33** 第42回 理学療法 57

発症早期の重度左片麻痺患者の歩行訓練における理学療法士の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 患者の左側から左上肢を抱え込む。
2. 患者の右前方から右上肢を持つ。
3. 患者の前方から両上肢を引く。
4. 患者の後方から両腋窩を支える。
5. 患者の正面から両肩を持つ。

**34** 第42回 理学療法 58

脳卒中片麻痺患者が反張膝を示す原因として誤っているのはどれか。

1. 下腿三頭筋の重度痙性
2. 大腿四頭筋の重度痙性
3. 大腿四頭筋の筋力低下
4. ハムストリングスの短縮
5. 下肢の重度深部感覚障害

**35** 第42回 理学療法 59

肩手症候群で正しいのはどれか。

1. 肩関節の他動運動痛を伴うことが多い。
2. 肩から上腕部にかけて腫脹と発赤とが現れる。
3. 発症率と上肢麻痺の重症度には関連がない。
4. 手指ではMP関節の屈曲拘縮が特徴的である。
5. 脳卒中発症後6か月以降に発症することが多い。

**36** 第42回 理学療法 60

脊髄損傷患者（第7頸髄節まで機能残存）に車椅子駆動訓練を行うとき、最も筋力強化が必要な筋はどれか。

1. 橈側手根屈筋
2. 上腕二頭筋
3. 尺側手根伸筋
4. 上腕三頭筋
5. 長母指屈筋

**37** 第42回 理学療法 61

脊髄損傷の機能残存レベルと生じやすい拘縮との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 第4頸髄節———肩甲骨下制
2. 第5頸髄節———肩関節内転
3. 第6頸髄節———肘関節屈曲
4. 第6頸髄節———手関節背屈
5. 第7頸髄節———手指MP関節屈曲

**38** 第42回 理学療法 62

脊髄損傷（第6頸髄節まで機能残存）患者の四肢麻痺治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 肩関節周囲筋に対する最大等尺性運動
2. 手指伸筋に対する自動介助運動
3. 大腿四頭筋筋力改善目的の電気治療
4. ハムストリングスへの持続的伸張運動
5. 上腕二頭筋の痙性への温熱療法

**39** 第42回 理学療法 63

脊髄損傷の機能残存レベルと装具との組合せで適切でないのはどれか。

1. 第5頸髄節———手関節背屈装具
2. 第7頸髄節———短対立装具
3. 第12胸髄節———股継手付き長下肢装具
4. 第2腰髄節———長下肢装具
5. 第3仙髄節———短下肢装具

**40** 第42回 理学療法 64

第3腰椎節レベルまで機能残存の完全対麻痺患者における合併症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 褥瘡
2. 体温調節障害
3. 神経因性膀胱
4. 起立性低血圧
5. 自律神経過反射

**41** 第42回 理学療法 65

ベッドサイドで行う対麻痺患者の下肢深部静脈血栓症の予防で誤っているのはどれか。

1. 早期離床を促進する。
2. 両下肢に寒冷療法を行う。
3. 両下肢の他動運動を行う。
4. 両下肢に間欠的空気圧迫法を行う。
5. 両下肢に弾性ストッキングを装着する。

**42** 第42回 理学療法 66

絞扼性神経障害と障害される神経との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肘部管症候群———尺骨神経
2. 円回内筋症候群———橈骨神経
3. 手根管症候群———正中神経
4. 梨状筋症候群———坐骨神経
5. 足根管症候群———脛骨神経

**43** 第42回 理学療法 67

ギラン・バレー症候群で誤っているのはどれか。

1. 四肢の弛緩性麻痺を生じる。
2. 重症では呼吸筋麻痺をきたす。
3. 初期に軽い感覚障害を生じる。
4. 軸索型は脱髄型より予後が良好である。
5. 肢節近位部から遠位部に向けて回復する。

**44** 第42回 理学療法 68

筋萎縮性側索硬化症への対処で誤っているのはどれか。

1. 起居動作の維持
2. 呼吸能力の維持
3. 自己導尿の確立
4. 関節拘縮の予防
5. 移動手段の確保

**45** 第42回 理学療法 69

多発性筋炎の運動療法で負荷量設定の目安になるのはどれか。

1. 血中CK値
2. 血中白血球数
3. 血中クレアチニン値
4. 血中蛋白排泄量
5. クレアチニンクリアランス

**46** 第42回 理学療法 70

デュシェンヌ型筋ジストロフィーで拘縮を起こしやすい筋はどれか。

1. 大腿筋膜張筋
2. 足の長指伸筋
3. 前脛骨筋
4. 中殿筋
5. 大殿筋

**47** 第42回 理学療法 71

10歳のデュシェンヌ型筋ジストロフィー児に行う理学療法で誤っているのはどれか。

1. 在宅呼吸訓練の指導
2. 腸脛靭帯の持続的伸張運動
3. 長下肢装具による歩行訓練
4. 下肢筋への機能的電気刺激
5. 自動運動による筋力低下の予防

**48** 第42回 理学療法 72

正常発達で最も消失時期の遅いのはどれか。

1. 非対称性緊張性頸反射
2. ランドウ反射
3. 手掌把握反射
4. ガラント反射
5. モロー反射

**49** 第42回 理学療法 73

小児の発達指標と月齢との組合せで誤っているのはどれか。

1. 人の顔をじっと見る———1か月
2. 物を持ち替える———6か月
3. 服や靴を脱ぐ———15か月
4. 家事をまねる———24か月
5. 円を模写する———48か月

**50** 第42回 理学療法 74

デンバー式発達スクリーニング検査の項目でないのはどれか。

1. 粗大運動
2. 微細運動—適応
3. 言語
4. 個人—社会
5. 空間認知能力

**51** 第42回 理学療法 75

脳性麻痺で正しい組合せはどれか。

1. 片麻痺——上肢よりも下肢に強い麻痺がある。
2. 両麻痺——下肢よりも上肢に強い麻痺がある。
3. 両麻痺——麻痺の強さに左右差はない。
4. アテトーゼ—下肢よりも上肢に顕著に現れる。
5. 四肢麻痺——体幹機能は保たれる。

**52** 第42回 理学療法 76

痙直型両麻痺児の歩行の特徴で誤っているのはどれか。

1. 体幹の側方動揺が大きい。
2. 股・膝関節の屈曲が大きい。
3. 股関節が内転位になりやすい。
4. 足先から接地する。
5. 上肢は伸展位をとる。

**53** 第42回 理学療法 78

外傷の初期治療で重要な RICE の原則に含まれないのはどれか。

1. 洗浄
2. 安静
3. 氷冷
4. 挙上
5. 圧迫

**54** 第42回 理学療法 79

肩関節周囲炎で正しいのはどれか。

1. 早期から筋萎縮が見られる。
2. 拘縮の強い例でも肩甲上腕リズムは保たれている。
3. 結髪に比べ結帯動作は制限されにくい。
4. 滑車訓練は三角筋の筋力強化を目的とする。
5. Codman 体操は慣性モーメントを利用して行う。

**55** 第42回 理学療法 80

転倒による右大腿骨頸部内側骨折に人工骨頭置換術を施行したとき、術後の起立訓練開始時期への影響が最も少ないのはどれか。

1. 術前の歩行能力
2. セメントの使用
3. 手術切開創の治癒
4. 心機能の低下
5. 片麻痺の合併

**56** 第42回 理学療法 81

変形性股関節患者の異常歩行と原因との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. アヒル様歩行———両側股関節外転拘縮
2. 腰椎前弯の増強———患側股関節屈曲拘縮
3. トレンデレンブルグ——患側股関節外旋拘縮歩行
4. 大殿筋歩行———患側股関節内転拘縮
5. 墜落性跛行———患側脚短縮

**57** 第42回 理学療法 82

スポーツ種目と傷害との組合せで適切でないのはどれか。

1. バレーボール———膝蓋腱微小断裂
2. サッカー———鵞足炎
3. バasketボール———後十字靭帯損傷
4. 野球———上腕骨離断性骨軟骨炎
5. テニス———上腕骨外側上顆炎

**58** 第42回 理学療法 83

小脳症状として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. ジスメトリー
2. 折りたたみナイフ現象
3. 深部感覚障害
4. 病的反射陽性
5. 筋緊張低下

**59** 第42回 理学療法 84

球麻痺でみられないのはどれか。

1. 舌筋の萎縮
2. 下顎反射の亢進
3. 軟口蓋の挙上不全
4. 嘔声
5. 嚥下困難

**60** 第 42 回 理学療法 85

多発性硬化症の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 痙縮に対して寒冷療法を行う。
2. 麻痺に応じて装具療法を行う。
3. 不随意運動には重錘を装着する。
4. 筋力増強訓練は高負荷低頻度で行う。
5. 視力障害には他の感覚による代償訓練を行う。

**61** 第 42 回 理学療法 86

脊髄小脳変性症の症状と対処との組合せで誤っているのはどれか。

1. 嚥下障害——とろみ調整食品
2. 起立性低血圧——弾性包帯
3. 脊髄後索障害——視覚代償
4. 四肢失調症——PNF
5. 睡眠時無呼吸症候群——口すぼめ呼吸

**62** 第 42 回 理学療法 87

抗パーキンソン薬の長期投与で起こる症状変動の現象はどれか。2つ選べ。

1. ウェアリングオフ現象  
(wearing-off phenomenon)
2. すくみ足歩行(frozen gait)
3. 鉛管様現象(lead pipe rigidity)
4. 突進現象(pulsion)
5. オン-オフ現象(on-off phenomenon)

**63** 第 42 回 理学療法 92

呼吸機能評価で臨床上問題になるのはどれか。

1. 1 秒率 : 90 %
2. PaO<sub>2</sub> : 90 mmHg
3. PaCO<sub>2</sub> : 60 mmHg
4. 動脈血 pH : 7.4
5. 1 回換気量 : 500 ml

**64** 第 42 回 理学療法 93

慢性閉塞性肺疾患の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 呼吸筋訓練
2. 胸郭可動性訓練
3. 深吸気
4. 下肢エルゴメーター
5. 体位排痰法

**65** 第 42 回 理学療法 94

心不全の徴候でないのはどれか。

1. 両下肢の浮腫
2. 体重の減少
3. 安静時心拍数の増加
4. 湿性ラ音の聴取
5. 運動時息切れの増悪

**66** 第 42 回 理学療法 95

心筋梗塞患者の急性期リハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 寒冷昇圧テストを行う。
2. 等尺性収縮運動を行う。
3. ギャッジアップ座位から開始する。
4. 心拍数 100/分以上では運動を中止する。
5. 排便訓練は差し込み便器で行う。

**67** 第 42 回 理学療法 96

糖尿病患者の理学療法で誤っているのはどれか。

1. HbA<sub>1c</sub>の数値を確認する。
2. 冷や汗は低血糖発作の予兆である。
3. ベッド上の安静は血糖値を低下させる。
4. 運動療法施行時には砂糖を用意しておく。
5. 意識障害発作は低血糖と高血糖で起こる。

# ■第42回 国家試験チェックシート ( 年 月 日) ( /127点)

実地問題 30問×3点+一般問題 37問×1点

番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
2	1	2	3	4	5	答
3	1	2	3	4	5	答
4	1	2	3	4	5	答
5	1	2	3	4	5	答
6	1	2	3	4	5	答
7	1	2	3	4	5	答
8	1	2	3	4	5	答
9	1	2	3	4	5	答
10	1	2	3	4	5	答
11	1	2	3	4	5	答
12	1	2	3	4	5	答
13	1	2	3	4	5	答
14	1	2	3	4	5	答
15	1	2	3	4	5	答
16	1	2	3	4	5	答
17	1	2	3	4	5	答
18	1	2	3	4	5	答
19	1	2	3	4	5	答
20	1	2	3	4	5	答
21	1	2	3	4	5	答
22	1	2	3	4	5	答
23	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
24	1	2	3	4	5	答
25	1	2	3	4	5	答
26	1	2	3	4	5	答
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
28	1	2	3	4	5	答
29	1	2	3	4	5	答
30	1	2	3	4	5	答
31	1	2	3	4	5	答
32	1	2	3	4	5	答
33	1	2	3	4	5	答
34	1	2	3	4	5	答
35	1	2	3	4	5	答
36	1	2	3	4	5	答
37	1	2	3	4	5	答
38	1	2	3	4	5	答
39	1	2	3	4	5	答
40	1	2	3	4	5	答
41	1	2	3	4	5	答
42	1	2	3	4	5	答
43	1	2	3	4	5	答
44	1	2	3	4	5	答
45	1	2	3	4	5	答
46	1	2	3	4	5	答

番号	解 答					
47	1	2	3	4	5	答
48	1	2	3	4	5	答
49	1	2	3	4	5	答
50	1	2	3	4	5	答
51	1	2	3	4	5	答
52	1	2	3	4	5	答
53	1	2	3	4	5	答
54	1	2	3	4	5	答
55	1	2	3	4	5	答
56	1	2	3	4	5	答
57	1	2	3	4	5	答
58	1	2	3	4	5	答
59	1	2	3	4	5	答
60	1	2	3	4	5	答
61	1	2	3	4	5	答
62	1	2	3	4	5	答
63	1	2	3	4	5	答
64	1	2	3	4	5	答
65	1	2	3	4	5	答
66	1	2	3	4	5	答
67	1	2	3	4	5	答

このページはコピーしてご使用ください。

## ■第42回 国家試験解答シート

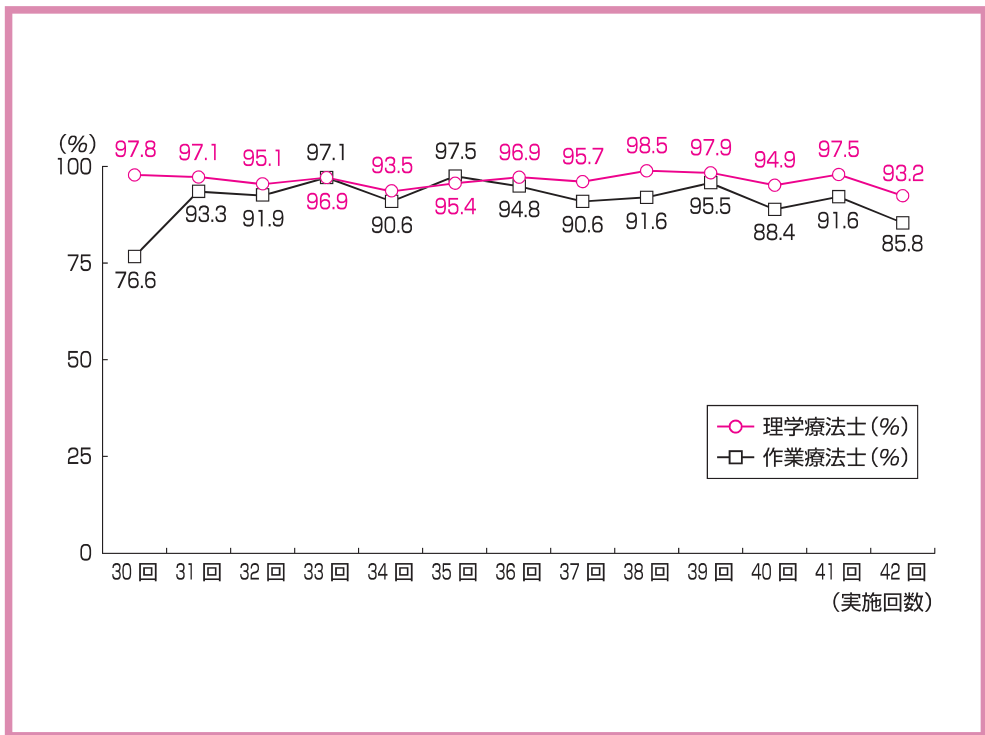
番号	解 答					
1	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
2	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
3	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	×	2,5
4	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
5	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
6	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
7	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
8	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
9	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
10	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	×	2,4
11	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	×	×	2,3
12	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
13	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	×	×	1,3
14	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
15	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
16	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
17	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	○	×	2,4
18	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
19	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	×	×	1,3
20	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
21	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
22	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
23	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4

番号	解 答					
24	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	○	4,5
25	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
26	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
27	ア	イ	ウ	エ	オ	答
	○	○	×	×	×	1
28	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	○	3,5
29	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
30	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
31	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
32	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
33	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	○	4,5
34	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
35	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
36	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
37	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	○	×	3,4
38	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	○	×	1,4
39	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
40	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	×	×	1,3
41	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
42	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
43	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
44	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
45	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1
46	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	×	1

番号	解 答					
47	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
48	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	×	2
49	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
50	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
51	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	○	×	4
52	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
53	1	2	3	4	5	答
	×	○	○	○	○	1
54	1	2	3	4	5	答
	×	×	×	×	○	5
55	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
56	1	2	3	4	5	答
	×	○	×	×	○	2,5
57	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
58	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
59	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
60	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	×	○	4
61	1	2	3	4	5	答
	○	○	○	○	×	5
62	1	2	3	4	5	答
	○	×	×	×	○	1,5
63	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
64	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3
65	1	2	3	4	5	答
	○	×	○	○	○	2
66	1	2	3	4	5	答
	×	×	○	×	×	3
67	1	2	3	4	5	答
	○	○	×	○	○	3

## 国家試験合格率

(第30回～第42回)



第42回PT・OT国試は、PT・OTともに出題内容の難易度に関して、例年と大差はありませんでした。にもかかわらず今回の国家試験合格率は、昨年と比較してPTで4.3ポイント、OTで5.8ポイント低下しました。これは明らかに「X(2)タイプ」問題の増加が原因と思われます。今後はさらに「X(2)タイプ」問題の出題数は増加し、「Kタイプ」問題は完全に廃止されると思います。